

新型コロナウイルス感染症に対する筑波大学附属高等学校の取り組み

プロジェクトチーム 山田 研也

コロナウィルス感染症の拡大により始まった2020年3月からの一斉休校に際し、本校ではプロジェクトチーム（以降PT）が立ち上げられ、生徒の学習保障を始めとするさまざまな問題の対応にあたった。本稿は、3月から続いた休校から、6月以降の学校再開後を含めた、学校運営や教育活動全体についての報告である。

具体的な内容は以下の通りで、執筆はPTのメンバーがそれぞれ担当した。なお、この資料は2020年12月5日にオンラインで実施した、本校の第70回教育研究大会の全体会において発表した際の資料を再編成したものである。

1. 休校時の生徒の学習保障に向けた本校の取り組み一覧
2. コロナ禍に対応した授業実施形態と評価について
3. オンライン授業について ー4月から7月末までの総括ー
4. 機器整備・問い合わせ対応について
5. Zoomの導入・環境整備とその活用
6. 休校期間における学校保健の取り組み ー心身の健康の保持を目指してー
7. オンライン研究会 ーG Suite for Education & zoom を活用した「オンライン授業」ー
8. 教科外活動の指導 ー生徒会、委員会活動に焦点を当ててー
9. オンライン文化祭「桐陰祭 Online」
10. プロジェクトチーム活動総括 ーPTの活動と学校組織が抱える課題ー

プロジェクトチームメンバー：

五十嵐 学、今西 智津子、勝田 仁之、小松 俊介、五味 祐子、曾根 典夫、中塚 義実、
中村 光貴、畑 綾乃、速水 高志、三輪 直也、山田 研也

休校時の生徒の学習保障に向けた本校の取り組み

■取り組みの流れ

2020年12月5日 筑波大学附属高等学校

	できごと	オンライン授業システムづくり	インターネット環境・機器の整備	教育系アプリケーションの整備
2014	Super Global Highschool 幹事校 (~2018) SGH 予算を活用し、ICT環境の整備が本格的にスタート		Chromebook 導入 ☞ 主として総合的な探究の時間「SGH スタディ」で活用	G Suite for Education 導入 ☞ メールアドレスを生徒、教員に配布 ☞ Google Classroom を一部の教員が活用開始
2020				
3/2	☞ 3/19 までの休校が決定 学年末考査、各種行事の中止		☞ 生徒全員が家庭にてメールを見られるかどうかの調査	
3/30			LTE 付端末を含む 41 台を無償貸与	☞ Zoom による教員会議の試行 ☞ YouTube による授業動画配信の試行(物理、数学)
3/31			☞ Google for Education 遠隔学習支援プログラムの端末貸出申込	
4/2	休校期間の教育活動のしくみ作りを行うために、教員有志によるプロジェクトチーム(PT)“Study@Home”を発足。教務部長、教科の代表、養護教諭も加わり、オンライン授業システム作り、環境整備、情報収集を行う		☞ Google Forms によるインターネット環境調査を全生徒に実施	
4/3			☞ Google Forms による機器レンタルに関するアンケートを全生徒に実施	
4/8	☞ 5/6 までの休校が決定 Project Team “Study@Home” 発足 「新型コロナウイルス感染症による学校休業に対する本校の基本方針」策定		☞ 約1割の生徒が機器またはインターネット環境に支援する必要があることが判明	全 HR が Classroom 開設 ☞ 教員会議に Zoom での参加
4/9	☞ 「オンラインでの教育活動の開始について」ホームページに掲載 & 生徒に配信	基本方針「生徒の教育を受ける権利を保障するために、すべての生徒がひとしく、質の高い学習・教育活動を行うことができるよう、最大限の努力をする」を策定	☞ 機器レンタルに関するアンケート未回答生徒への電話による追跡調査(49名)	全科目が Classroom 開設 課題配信は原則Classroomを通じて行うとした
4/10			☞ 機器貸し出し台数決定 ・Chromebook42台 ・ポケットWi-Fi55台	☞ Zoom、Google Meet による授業・HR の試行
4/11	オンラインによる授業の開始 生徒の環境整備が完了するまでの間はライブ配信、動画配信は限定的な実施にとどめる ライブ授業を実施する際は、当面通常の時間割にしたがう	全科目担当者の授業の集約(課題の内容・配信日・メー切等) Google Forms を活用し、生徒の生活実態および家庭学習の状況についての調査を実施 生活面の乱れやオンラインによる課題配信の問題点等が明らかに	Chromebook 端末貸出完了 ヤマト運輸「パソコン宅急便」「コンパクト便」を利用	Zoom 教育プラン(有償)契約 セキュリティ面を考慮 教員 41名分のアカウント取得
4/13		生徒の生活及び学習状況調査	Chromebook 端末貸出完了 ☞ Google for Education 遠隔学習支援プログラムの端末到着	Google Classroom 講習会 教員対象の講習会を開催 教員全体の8割強が参加 全教員がClassroom使用を開始
4/14		オンライン授業本格実施体制検討	ポケット Wi-Fi 端末貸出完了 「縛りなしWiFi」社と契約 1日2GB までの通常プラン	☞ Zoom 活用上の本校のセキュリティ対策を保護者へ連絡 ☞ Zoom 登録機能の活用を開始(朝体操)
4/16		オンライン授業意向調査 全教員対象に実施方法の希望を調査、それに基づき実施案作成	☞ Google Site を活用。生徒・保護者からの問い合わせ窓口を一本化する	有償限定の登録機能活用によりセキュリティを強化 入室時間が記録されることにより出欠管理も容易に
4/17		☞ 生徒の生活習慣確立を期して「ほけんだより」第1号配信		☞ 教員対象に Zoom を活用した物理の授業を公開
4/18		オンライン授業(5/11~)実施案確定	テレワークの保護者と機器を共有し、自由に機器を使用できない生徒に対して、追加の貸し出しを実施	Zoom 操作方法講習会 教員対象の講習会を開催 教員全体の8割強が参加 登録機能、ブレイクアウトルーム・投票機能の活用方法を共有
4/20	☞ 教員会議:オンライン授業における課題、ルールを共有			Zoom の使い方ガイド 生徒、教員対象にそれぞれガイドを作成・配信
4/21	☞ 「オンラインでの教育活動をすすめるにあたってのお願い」とご連絡「ホームページに掲載	オンライン時間割作成のための調査 ☞ 「ほけんだより」第2号配信		
4/22	全生徒対象「朝体操」開始 Zoomを活用し平日毎朝実施 生徒の生活習慣確立や運動不足解消を期す	オンライン時間割確定 ☞ オンライン時間割を生徒に連絡		
4/23				
4/24	☞ 5/30 までの休校延長が決定			
4/25				
4/27	「オンライン授業」実施案承認			
4/28	☞ 「オンライン授業」を本校の正式な教育活動に位置づける			
5/1	☞ 『「オンライン授業」の実施について』ホームページに掲載 & 生徒に配信			
5/7				
5/8				
5/11	オンライン時間割による授業開始			

	できごと	オンライン授業システムづくり	登校の形態	オンライン文化祭「桐陰祭 Online」
4/27		休校が長引いた場合の評価方法、単位の履修・修得認定についての検討を開始		文化祭の実施を決定
5/7		評価および単位認定 検討開始	分散登校のあり方検討開始	原則中止とはせず、開催の形態を模索することを会議決定
5/11	8/1 まで授業日とすることを決定	定期考査の実施 検討開始	通常登校に向けての分散登校のフェーズを3段階(A～C)設置。文部科学省や東京都の基準に応じ、フェーズの移行をスムーズに行えるようなプログラムを策定	オンラインでの開催を決定
5/12	「本校の取り組み」ページ掲載			全国の学校で最も早い段階でのオンライン文化祭開催を決定
5/13		「ほけんだより」第3号配信		プロモーションビデオ(PV)第1弾公開
5/21	この時点までの取り組みや授業実践をホームページに掲載	第2回生活及び学習状況調査		Cluster 社とミーティング
5/22		「ほけんだより」第4号配信	「通常登校に向けた段階的プログラム」策定	KDDI 社とミーティング
5/28	コロナ校内対応マニュアル策定			
5/29	「オンライン授業」研究会開催			
5/30	オンライン授業の実践を紹介し、参加者との情報共有をすべく開催。全国より約250名が参加。	午前中は朝体操+オンライン授業3時間、午後は学年ごとに指定された日(週1、2日)に登校して体育またはホームルーム活動を行う		
6/1	分散登校開始(フェーズ「分散A」)			
	登校時の消毒・チェック実施 教員が輪番でテント当番を担当し、手指消毒を行わせるとともに、健康観察フォームへの入力が行われているかを確認した	考査・対面授業の調査を実施 各教科に、評価をつけるにあたり定期考査や対面授業をどの程度希望するかの調査を実施 通学に不安を抱える生徒への対応を検討、実施 「分散登校の枠組み」策定	フェーズ切り替えのプロシージャーについての確認 分散B検討開始	
6/5				朝日新聞に記事掲載
6/6				東京大学生産技術研究所・野城研究室とのミーティング
6/10		緊急時等における教育活動の基本的な考え方を整理し、変動・移行期における仕組みを策定		全国 ONLINE 文化祭会議
6/13		午前中はオンライン授業3時間(朝体操は終了)、午後は学年ごとに指定された日(週3日)に登校して授業またはホームルーム活動を行う		本校の文化祭オンライン化の取り組みが全国に広がる契機となる
6/15	フェーズ「分散B」に移行			
	部活動・委員会活動再開 「新型コロナウイルス対策に伴う部活動ガイドライン」を策定 図書貸出予約サービス開始 前期中間考査第Ⅰ期実施 対面授業を行ってから考査を実施したい教科を考慮し、2つの期に分けて中間考査を実施 校内研究会(オンライン授業総括と今後に向けての検討)を実施	7月1日以降の授業のあり方を検討(40分短縮授業or分散B) 熱中症対応・昼食指導を検討 7, 8月の猛暑に備え、各授業時に3名ずつの熱中症対応教員を配当。昼食時には6名の教員で見回りを行うことを決定	「分散Bにおける行動規範・行動指針」の策定 「学校の新しい生活様式」における地域感染レベル2の基準に従い、さらに学校医の指導・助言のもと、本校としての行動規範・行動指針を制定	中央大学、千葉大学医学部学園祭委員長と本校実行委員長が会談。オンライン文化祭のノウハウを伝え、大学に広がる契機となる
6/22				大学学園祭委員長と MTG
6/25		「ほけんだより」第5号配信		校内向けイベントを開催
6/29		「今後の授業計画」「今年度の評価」についての調査を実施	7/8からの分散C移行を決定 分散C移行は延期、7月中は分散B継続を決定	PV 第2弾公開
7/12				
7/13				
7/17	オンライン生徒総会	生徒の学習保障のため、対外的な説明責任を果たすために各教科に調査を実施		
7/25	前期中間考査第Ⅱ期	第3回生活及び学習状況調査		
7/29	夏季休業(8/1～8/23)	「ほけんだより」第6号配信		著作権・肖像権ガイドラインを策定
8/1				
8/3				
8/24	フェーズ「分散C」に移行			
9/8	教育実習(8/24～9/11)	40分短縮授業6時間実施。始業時間は遅らせて(8:20→9:40)、下校時間は早めた(17:40→17:00)。昼休みも短縮(60分→30分)		日本経済新聞に記事掲載
9/10				日本テレビ「ZIP!」で特集
9/13				対外向けイベントを開催
9/26	前期末考査(10/1～10/6)	第4回生活及び学習状況調査		
10/1				スポーツ大会との合同開会式
10/11	スポーツ大会(10/14,15)		後期開始。始業時間を9:20とし、45分授業6時間実施とした。	桐陰祭 Online 開催(10/17,18)
10/14				
10/18				

■ 休校時のオンラインを活用した教育活動の全体図



■ 「オンライン授業」の実践例

【物理】動画配信授業とリアルタイム授業(Zoom)の組み合わせ

週に YouTube による授業を 2 回、Zoom によるリアルタイム授業を 1 回のペースで行っている。Zoom は 2 学年の選択者約 200 人に対し一斉に行っている。

(動画) 自作の実験動画や KeyNote のスライドに、編集ソフト「Ink2Go」で音声や書き込みを加え 1 つの動画にする。上は実演の温度測定に解説を加えている様子。

(Zoom) 動画授業で学んだ知識を活用して、実験結果を予想する課題に取り組む。生徒が誤解しがちな概念に焦点を合わせて、予想分布が分かればやすい設定をねらう。課題を提示し、まず個人で予想させ、投票機能で予想分布を集計して共有。その後ブレイクアウトルームを利用して、4～5 人のグループで予想について話し合う。その後、もう一度投票機能で予想分布をとる。

【国語】PowerPoint とペンタブを活用した動画の配信

1、3 年漢文では YouTube 限定公開による動画配信を中心とした授業を実施。PowerPoint のスライドを土台にアニメーションとペンタブを併用した「スライドショーの記録」による動画の配信とともに、PDF による資料・ワークシートの配布、Google Forms による取り組みチェックと課題回収、Google Classroom の限定公開コメントによる個々の質問への対応を行う。扱う内容は、漢字文化の形成など文字文化の歴史、漢文読解に必要な知識とその演習、文章の読解とそれをもとにした考察等。生徒には特に、読み方の説明スライド、質問に答えるコーナー、文化や歴史とつながる話が好評である。

【英語】Zoom による英語でのディスカッション

英語のスピーキング授業 (3 年選択・11 名) では、Zoom を用いて約 90 分間、英語でのディスカッションを楽しんでいる。グループディスカッションのテーマは生徒たちで決定。これまでのテーマは ①「夢の卒業旅行プラン」コンペ ②オンライン授業に関する提言 Zoom 授業後の振り返りは Google Form で提出し、教師がまとめたものを PDF で後日共有する。毎週盛り上がり、授業の最後には「早く教室で会いたいね」の声が…。

【数学】2 人の教員での掛け合いによる授業動画の配信

数学科教員 2 名がそれぞれ教員役、生徒役に分かれて掛け合いによって授業を進める。YouTube に限定公開でアップし、Google Classroom で課題配信。生徒は動画視聴後、限定公開コメントで授業内容に関連した感想、質問を記入。担当教員はすべてのコメントに対して返答する。生徒役の教員は、寄せられたコメントをとりあげ、次の授業内で質問したりしている。「掛け合いがあるので実際に参加しているつもりで受けられる」の声もあり、概ね好評か(?)

コロナ禍に対応した授業実施形態と評価について

2020年11月30日

1. 概要

各教科の授業実施形態と、年間授業計画及び評価計画は密接に関係する。オンライン授業を組み込み、感染状況に応じて段階的に授業形態を移行させる上で、評価方法も連動して対応させる必要がある。また、対面授業とオンライン授業を融合させるフェーズにおいては、時間割を決め、教室割り振りをする際に、各教科特性によってどのような評価が可能かを見通し、全教科を俯瞰してオンライン&対面のバランスの最適化を図ることが重要な要素となる。本校に於いては、P.T.（後期より拡大総務部会）に教務部の代表も入り、各教科や関係分掌と連携して、フェーズの授業実施形態の検討と対応を行った。各教科・科目に対して実態調査、希望調査を適宜実施し、それらを反映させながら各フェーズにおける時間割作成及び評価方法の検討を行った。

2. 対応の詳細

●3/31(火)

附属学校教育局より附属学校群臨時休校延長の指示

職員会議にて①案（4/20(月)始業）、②案（5/7(木)始業）を検討。

●4/7(火)

通常版（1.2版）時間割完成

前期中間考査（5月）実施、延期、中止について教務部会で協議。

●4/8(水)

職員会議にて臨時休校延長の確認・決定

- ・始業は②案 5/7(木)～とする。
- ・「通常版」時間割は、臨時休校の延長のため使用せず。
- ・前期中間考査の実施について各教科の意向調査を今後実施。
- ・「オンライン授業」「オンデマンド授業」を生徒の出席すべき日数に算入できるのかの情報が錯綜中。(萩生田文科相 4/3(金):授業時数に認める措置を検討の発言有)

P.T. 発足

〈基本方針〉「生徒の教育を受ける 権利を保障するために、すべての生徒がひとしく、質の高い学習・教育活動を行うことができるよう、最大限の努力をする」

- ・「オンラインでの教育活動の開始について」(PDF)を生徒保護者に配布

●4/13(月)

「オンライン授業」試行開始

「全科目担当者の授業課題集約」(P.T. ⇄各教科)

〈調査目的〉各クラスにおいて課されている課題を集約し、可視化する。課題の量や適切な期日の適切化を図る。

〈調査内容〉Google スプレッドシート利用。教員が個々に「学年・組・科目・課題のタイトル・課題の内容・開始日・締切日」を入力する。

〈調査様式例〉

10	入力例						
11	学年	組	科目	課題のタイトル	課題の内容	開始日	締切日
12	1	1	情報	メールのお作法	電子メールを送るときのマナーに従って担当教員にメールを送る	4/13	4/18
13	2	1	体育	QCシートの作成	QCシートに毎日の活動記録をつけていく	4/13	5/7
14	2	2	体育	QCシートの作成	QCシートに毎日の活動記録をつけていく	4/13	5/7
15	3		必選数Ⅲ 14組	微分法の復習	サクシード数Ⅱの微分法を各自復習する	4/15	
16	3		世界地理a	気候区分の復習	気候区分について復習し、Googleフォームの小テストに回答する	4/17	4/23
17	3	6	C英Ⅲ	Lesson1	教科書のLesson1を読み、Googleドキュメントのレポート課題に回答する	4/14	4/20

●4/23(木)

「オンライン時間割作成のための教科データ集約」(P.T. ⇄各教科)

〈調査目的〉オンライン授業実施に向けて、「完全オンライン授業」のオンライン時間割作成のための各教科の意向、実施形態の希望を調査する。

〈調査内容〉Google スプレッドシート利用。各教科が科目毎に、「科目名・単位数・担当教員・学年・組・授業形態・週ごとの回数」を入力する。

〈調査様式例〉

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
	科目	単位数	担当教員	学年	クラス	ライブ配信回数/週	ライブ授業の同時展開	動画配信回数/週	テキストベース課題配信回数/週
2	数学Ⅰ	5		1	1,2,3,4,5,6	5	全クラス同時	0	0
3	数学Ⅱ	3		2	1,2,3,4,6	3	全クラス同時	0	0
4	数学Ⅱ	3		2	5	3	1クラスごと	0	0
5	数学B	2		2	1,2,3,4,6	2	全クラス同時	0	0
6	数学B	2		2	5	2	1クラスごと	0	0
7	数学Ⅲ(必選)	4		3	3	0	配信なし	4	0
8	数学Ⅲa(自選)	2		3	1	0	配信なし	2	0
9	数学Ⅲb(自選)	2		3	1	0	配信なし	2	0
10	数学Ⅱ(自選)	2		3	2	0	配信なし	1(2コマ分)	0

→オンライン時間割作成に反映させる。

●4/27(月)

職員会議にて授業開始の延期を決定

全教科・科目間での授業時数を調整するため5/11の月曜日に開始とする。

●4/30(木)

P.T.にて評価の方法について協議

- ・流動的な感染状況に応じて教育活動形態の制限も変わり、各フェーズにおいて異なる形態で授業を実施することになる。
- ・授業形態の変化に伴い、評価の方法もそれぞれの形態に応じたものとなる。
- ・生徒に不利にならないような評価の在り方を引き続き検討していく必要がある。
- ・各教科は、担当する生徒に対し授業内容とともに評価をどのようにつけるのかを明示しなければならない。
- ・最終的には年度末に、フェーズ毎の授業形態とその割合が決まることになり、そこで、評価方法の適切性を再度見直す必要がある。

●5/1日(金)

「『オンライン授業』の実施について」(PDF)を生徒保護者に配布

- ・5月11日(月)からオンライン授業開始の連絡
- ・朝体操 8:30-8:45 課題配信 8:50
- ・1限 9:00-9:50 2限 11:00-11:50 3限 13:00-13:50 4限 14:10-15:00
- ・教員や生徒がZoomの操作に慣れていない、各家庭のPCの利用状況(保護者のリモートワーク、兄弟間での利用)が不明なため、時間割に余裕を持たせる意図。

●5/10(日)

オンライン授業版(9.0版)時間割 完成

- ・各科目はオンライン授業(Zoom)または課題配信(動画配信含む)を、週1時間(1回)以上行う。
- ・オンライン授業は曜日時限固定、課題配信は曜日固定。Googleクラスルームを利用して授業実施、課題配信、課題提出を行う。
- ・授業時間数は担当者に任せ、同一科目間、担当者間で揃えることはしない。

●5/11(月)

オンライン授業スタート

オンライン授業版(9.0版)時間割の稼働

●5/13(水)

対面授業(登校)の開始、方法について、以降継続的に検討

●5/21(木)

「評価方法の検討に向けた調査」(P.T. ⇔各教科)

〈調査目的〉コロナ対応の学習について評価内容・評価方法を集約し、本校教員で共有する。その上で、以下のことを目的とする。

- ①生徒に適切に示していくための材料とする。
- ②今後の分散登校のあり方を検討するための材料とする。
- ③各教科・科目における年間の評価を考えるための材料とする。

〈調査内容〉Google スプレッドシート利用。各教科で「科目・単位数・担当者名・学年・組・授業形態(主・副)・授業(概要・ライブ欠席対応)・評価方法(参加&取組の確認・内容の評価)・生徒の取組概況」を入力する。

また、意見集約として以下の点について教科で協議し、その内容を入力する。

- ①実技科目等、評価の難しい科目について、その事情や、評価方法の提案等。
- ②オンライン授業期間の取り組みに応じない生徒について、困っている点や、対応方法の提案等。
- ③オンライン授業期間、分散登校期間の評価を年間の評価に位置づける際に、課題となる点や、教科・科目における考え方等。
- ④上記以外の、各教科・科目における懸案事項(難しいと感じていることや、今後検討が必要なこと、P.T.でとりまとめてほしいこと等)。

〈調査様式例〉

●【参考】各科目の評価方法の例												
科目	単位数	担当考名	年	クラス	授業				評価方法		生徒の取組概況	備考
					形態(主)	形態(副)	概要	ライブ欠席対応	参加・取組の確認	内容面		
世界史A	2		1	全	ライブ配信	なし	使用する資料はGoogle Classroomにアップし、Zoomにより講義、及び考察・議論等のグループ活動を行う。	申し出があった場合に、授業の録音等を公開する。	ミーティングの登録機能によりレポートで確認。	授業時の議論への参加状況、授業内容を踏まえてのレポートの内容により評価する。	(例なのでここでは省略)	
情報の科学	2		1	全	動画配信	なし	動画を見て、週1~2回のペースで提出課題を課す。	該当無し	課題提出により確認。	年間を通して提出された課題の提出状況、及び内容によって評価する。	(例なのでここでは省略)	個別の質問については、Google Classroom限定公開コメントでやりとりをして対応。
物理基礎	3		2	必選全	動画配信	ライブ配信	動画配信(週2)ライブ配信(週1)。動画配信は、演示実験を交え、知識の獲得。ライブ配信は、知識の活用。実験結果を予想する問題を出し、個人予想、ブレイクアウトで議論、実験や解説で確認。	授業録画をGoogle Classroom上にアップ。出席・欠席によらず全員が視聴可能。昨年度までの実績だと、試験前など、復習の際に使う生徒も少なからずいる。	Zoomのレポートで滞在時間と照合して欠席遅刻を確認。不審な点があれば連絡。欠席/遅刻/早退の場合、課題回答にて事情を記入。機器トラブル等正当な事情ならば、課題提出があれば減点はなし。	課題の内容により評価する。不誠実でなければ、正解/不正解は評価の対象としない。期限を過ぎるまでの提出は減点。	(例なのでここでは省略)	
数学Ⅱ	3		2	12346	動画配信	なし	・動画視聴後、Google Classroom限定公開コメント欄に授業の内容に関わる質問または感想を記入し、送信する。(期限は当日中)	該当無し	Google Classroomの限定公開コメントの記入の有無にて確認。	・期限内・コメント有→10点 ・期限外・コメント有→9点 ・期限内・コメント無→コメント入力を指示 ・未提出が1週間経くとメールにて連絡。	(例なのでここでは省略)	生徒のコメントについては、全て返信して質問等にも対応する。
古典B漢文	2		1	全	動画配信	テキストベース	動画見て課題 (by PDF・スライド・Google Forms等) に取り組む。Google Formsで終了チェック、考察、感想コメント、質問等を記入して送信。	該当無し	Google Formsによる終了チェックと感想コメントの記入にて確認。	考察等の記入、感想コメント、提出する課題の内容によって評価する。	(例なのでここでは省略)	個別の質問については、Google Classroom限定公開コメントでやりとりをして対応。

→分散A時間割作成に反映させる。

●5/23(土)

「新オンライン時間割作成に向けた調査」(P.T. ⇄各教科)

〈調査目的〉 分散登校の開始に伴うオンラインと対面授業のバランスを考慮した時間割作成に向けて、各教科・科目の授業実施形態希望及び理由の洗い出し。

〈調査内容〉 Google フォームを利用。以下の内容を教員個々に書き込む。

〈調査項目〉

- ・現在のライブ配信授業で、3限の動画配信授業等(ライブ配信無し)に移せる科目がありますか
- ・現オンライン時間割からどの科目について、どのような変更・移し方が可能ですか
- ・現在のオンライン時間割枠で、単純に枠を減じることが可能な科目はありますか
- ・現オンライン時間割枠からどの科目について、どのような減じ方が可能ですか
- ・分散登校Bの期間で、対面授業を実施したい科目がありますか
- ・科目名(学年・科目名)・対面授業の概要・クラス生徒人数・人数の分け方
- ・授業実施に感染対策として必要となりそうなもの
- ・授業を実施できる・したい場所
- ・分散登校実現の検討に向けた御意見(対面授業優先科目の考え方、方法や場所の工夫案等)
- ・ざっくばらんな希望、コメント等

●5/27(水)

「分散登校の開始について」(PDF) を生徒保護者に配布

- ・6/1(月)からの「分散A」(対面とオンラインを組み合わせた授業)開始を連絡。

●5/29(金)

分散A(9.1版)時間割 完成

- ・《50分授業、休み時間20分》 朝体操 8:30-8:45 課題配信 8:50頃
- ・1限 9:00-9:50 2限 10:10-11:00 3限 11:20-12:10
- 4限 13:30-14:20 5限 14:40-15:30
- ・各クラス週1回登校(4限・5限) LHRと体育の2時間のみ対面授業を実施。
- ・登校日のクラスは3限の授業は設置しない、もしくは動画配信授業を置くことで登校時間(約2時間)を確保できるように配慮。

●6/1(月)

分散Aスタート

分散A(9.1版)時間割の稼働。

●6/6(土)

「定期考査・対面授業実施の希望調査」(P.T. ⇄教科)

〈調査目的〉流動的な情勢の中で、いったん前期において各科目の評価を出す前提で、定期考査および分散登校時における対面授業の実施希望を調査し、中間考査実施形態の確定と、分散B時間割作成に生かす。

〈調査内容〉Google スプレッドシート利用。各科目担当者が、以下のことを入力する。

- ①前期の評価にあたり、定期考査の実施をどの程度希望するか
- ②前期の評価にあたり、対面授業の実施をどの程度希望するか
- ③積極的なオンラインによる試験実施の実施希望等がある場合は、具体的な案を書く。

〈調査様式例〉

学年	科目名	実施クラス	担当者	実施希望	実施時期	実施時期選定の理由	備考
1年	地理A	全クラス		ア) ぜひ行いたい	1期(6月下旬)	オンライン授業の内容の定着度をはかり、評価の材料とするため	例
1年	国語総合(現代文)	全クラス		エ) そもそも考えていない	実施しない		レポート課題で評価する
2年	現代文B	全クラス		エ) そもそも考えていない	実施しない		レポート課題で評価する
3年	現代文B	全クラス		エ) そもそも考えていない	実施しない		レポート課題で評価する
1年	国語総合(古文)	1・6組		ア) ぜひ行いたい	1期(6月下旬)	オンラインで十分に授業が進んでいるから。	2期でもよい。
2年	古典B(古文)	全クラス		ア) ぜひ行いたい	1期(6月下旬)	対面授業でフォローしたい生徒もいるが、7月下旬の考査実施では十分なフィードバックができないため。	分散Bからの対面授業を希望します。
3年	古典B(古文)	全講座(必選、自選)		ア) ぜひ行いたい	2期(7月下旬)	指定校推薦の生徒への配慮を考え、7月下旬の実施を希望します。	
1年	古典B(漢文)	全クラス		ア) ぜひ行いたい	1期(6月下旬)	オンラインで授業を進められており、その学習成果を測るべきだから。2期だと範囲が広くなりすぎ、生徒の負担も大きくなるから。	
3年	古典B(漢文)	全講座		ア) ぜひ行いたい	1期(6月下旬)	オンラインで授業を進められており、その学習成果を測るべきだから。2期だと範囲が広くなりすぎ、生徒の負担も大きくなるから。	
1年	国語総合(古文)	2・3・4・5組		ア) ぜひ行いたい	2期(7月下旬)	分散Bで2時間なりとも授業ができるのであれば、6月にしたい。不可能ならば、対面で授業を行ってからにしたい。	

学年	科目名	実施クラス	担当者	対面授業の希望	その理由
1年	数学Ⅰ	全クラス		エ) 行わなくてもよい	
2年	数学Ⅱ	1,2,3,4,6		ウ) できれば分散Cから	
2年	数学B	1,2,3,4,6		ウ) できれば分散Cから	
2年	数学Ⅱ	5		ウ) できれば分散Cから	他の教科を優先して入れていただき、残った枠はすべて行いたい。
2年	数学B	5		ウ) できれば分散Cから	他の教科を優先して入れていただき、残った枠はすべて行いたい。
3年	数学Ⅲ 必修選択	全クラス		エ) 行わなくてもよい	ある程度オンライン授業できちんと授業が行えているから
3年	数学Ⅲ b 自由選択	全クラス		ウ) できれば分散Cから	
3年	数学Ⅲ a 自由選択	全クラス		ウ) できれば分散Cから	
3年	数学Ⅱ 自由選択	全クラス		エ) 行わなくてもよい	演習型の授業であることや生徒のアンケートを踏まえると、オンラインで学習に取り組んでいるから。
1年	数学A	全クラス		ウ) できれば分散Cから	

→分散B 時間割作成、中間考査実施に反映させる。

●6/12(金)

分散B (9.2 版) 時間割 完成

・《50 分授業、休み時間 午前 10 分、午後 15 分》 課題配信 8:00 頃

1 限 8:20-9:10 2 限 9:20-10:10 3 限 10:20-11:10

4 限 12:30-13:20 5 限 13:35-14:25 6 限 14:40-15:30

- ・朝体操の実施はしない。
- ・週あたり登校日数：1・2年生は3日、3年生は選択科目数により異なる。
- ・登校時限は4限～6限。登校のある日のオンライン授業は3(2)限で終了
- ・対面 LHR は1年生のみ。2年、3年の LHR は学年の要望でオンライン授業に移行。
- ・40名収容教室を感染予防のために3教室に限定：地理教室、被服教室、桐陰会館
- ・理科（1年生物・2年化学）は、他科目（1年古文・2年家庭）と組んで、クラスの半数ずつ（出席番号偶数・奇数で分割）が理科実験、他科目を受講。これは理科実験室収容人数の都合。
- ・生物基礎（実験）は、担当者により生物実験室と普通教室を利用。
- ・物理基礎（実験）は、普通教室を利用。2クラスを4教室に分割して同時授業。
- ・化学基礎（実験）は、担当者により化学実験室と物理実験室を利用。
- ・地学基礎（実験）は、地学教室で収容できた。
- ・1年2年の体育と芸術は、A週B週で2クラス同時展開1クラスずつ入替。
- ・実施科目

1年：古文、数学ⅠA、生物基礎、体育、芸術(音美工書)、LHR

2年：古文、倫理、化学基礎、物理基礎、地学基礎、体育、芸術(音美工書)、家庭

3年：必修：古文、体育 自選：古文、化学 abc、物理 ab、地学特講、オーラル

プレゼンテーション、音楽Ⅲ、美術Ⅲ、工芸Ⅲ、クラフトデザイン

「来週 (6/15～) の登校日等について」(PDF) を生徒保護者に配布

- ・6/15(月)から「分散B」(分散Aからさらに対面授業増) 開始の連絡

●6/15(月)

分散Bスタート

分散B(9.2版)時間割の稼働

感染状況の悪化に伴い、7月中旬より分散Cへ移行の予定を中止し、分散Bを継続。

●6/22(月)・23(火)

前期中間考査Ⅰ期実施

- ・前期中間考査Ⅰ期、Ⅱ期のいずれかで各科目考査を実施(対面にて実施)。実施時期は科目担当者の希望により振り分ける。

●7/23(木)・24(金)

授業実施

休日(海の日・スポーツの日)であるが、授業時間数確保のため授業を実施。

英検受験をすでに申し込んでいた生徒は、公欠(3年)、事故欠(1年2年)で対応。

●7/29(水)・30(木)・31(金)

前期中間考査Ⅱ期実施

感染防止のため普通教室収容制限20名とする。

学年ごとに登校時刻をずらし、使用教室の調整を図る。

●8/1(土)

「各教科年間指導計画と評価方法の見直しと今後の予定調査」(P.T. ⇔各教科)

〈調査目的〉以降、分散B継続、完全オンラインのいずれの場合でも、できるだけ平常時と変わらない生徒の学習を保障することを目指して、各教科・科目において年間の指導計画と評価計画を見直し、確認して見通しを立てる。

〈調査内容〉Google スプレッドシートを利用。各科目で、年度当初に作成した「教育計画」と照らし合わせた今後の予定として(分散Bが継続する場合、完全オンラインとなる場合両方について)、「夏休み明けの時間割での変更要望」、「2020年度末まで分散Bが継続される場合の授業計画」、「評価方法」を入力する。

〈調査様式例〉

教科	学年・組	科目名	単位数	担当者名
国語科	1年1～6組	1年古典B・漢文	2単位	
<p>■このシートは、今後(1)分散B継続(2)完全オンラインのいずれのパターンになって場合でも、できるだけ平常時と変わらない生徒の学習を保障することを目指すために、作成を通して確認していただくためのものです。どうぞよろしくお願いいたします。</p>				
<p>1. 今後の予定 *年度当初に作成した「教育計画」と照らし合わせてください</p>				
<p>(1) 分散Bが継続する場合</p>				
<p>ア) 夏休み明け[8月24日(月)]以降の時間割での変更要望はありますか(現状→変更要望 それぞれ記載) *すべてが要望どおりにはならない可能性があります</p>				
<p>現状 : 動画配信授業 2回/週 変更要望: 特になし。(複数クラスが同時間に重なってかまいません。)</p>				

イ) 2020 年度末まで分散 B が継続される場合の授業計画	
●配信方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・動画配信授業→Google Forms にて、視聴チェックとコメント記入 ・テキストベース (PDF・Google Forms・Google スライド) →資料配付と課題提出 (必要に応じて) 	
●授業計画	
実施済み	4 月 中国の王朝と日本の関係、漢文訓読の基礎、漢字の歴史、漢和辞典について
	5 月 寓話の読解と論理構造の考察:「漁父乃利」「蛇足」「戦国策」/再読文字・疑問・反語
	6 月 寓話の読解と比較考察:「朝三暮四」「列子」「荘子」「狐借虎威」「戦国策」/文構造・使役
	6/7 月 史伝の読解 Level1 と日本への受容:「先從隗始」「鶏鳴狗盗」「十八史略」/抑揚
	8/9 月 史伝の読解 Level2 と現代的課題の考察:「臥薪嘗胆」「十八史略」/重要語句の整理
実施予定	10 月 史伝の読解 Level3 と人物像の考察:「鶏口牛後」「吾舌在否」「十八史略」/比較・選択
	11/12 月 史伝の読解 Level4 と多面的考察:「鴻門之会・四面楚歌・項王最期」「史記」/受身・仮定
	1 月 漢詩の読解と分析鑑賞:「唐詩十首」/漢詩の基礎知識
	2 月 論説の読解と論理構造の考察:「雑説」「唐宋八家文読本」「黔之驢」「柳河東集」・部分否定
ウ) このケースの評価方法	
定期考査 70% (年 4 回) + 平常点 30% (オンライン授業への取り組みと課題提出の状況)	
(2) 完全オンラインとなる場合	
ア) 夏休み明け [8 月 24 日 (月)] 以降の時間割での変更要望はありますか (現状→変更要望 それぞれ記載) *すべてが要望どおりにはならない可能性があります)	
(1) に同じ。	
イ) 2020 年度末まで完全オンラインとなる場合の授業計画	
(1) に同じ。	
ウ) このケースの評価方法	
(1) に同じ。	
2. そのほか	
万が一、定期考査が実施できない場合は、別途課題 (読解/分析/考察を融合したもの) を課す。	

●8/7(金)

「教科主任会議 全教科の年間指導と評価方法の検討」

上記の「各教科年間指導計画と評価方法の見直しと今後の予定調査」を、全教科集約し、教科代表が共有し、その内容について適切かどうか協議する。主に、評価の見直しについて検討するとともに、時間割変更の必要性とその具体的内容について話し合う。

各科目の授業実施形態と、その中でどのような評価が可能か、情報交換をするとともに、各教科の現状を共有する。

●8/18(火)

「本校の夏休み明けの教育活動について (お願い)」(PDF) を生徒保護者に配布

・8 月 25 日 (火) から「分散 C」(40 分短縮・全授業対面授業) 開始の連絡

- ・4月作成の通常時間割（1.2版）時間割を流用
- ・《40分授業、休み時間10分》 週番朝礼 9:30
1限 9:40-10:20 2限 10:30-11:10 3限 11:20-12:00 4限 12:10-12:50
昼休み 12:50-13:20 5限 13:20-14:00 6限 14:10-14:50
7限 15:00-15:40 8限 15:50-16:30 (7限8限は第二外国語のみ)

●8/19(水)

拡大総務部会にて、今後完全オンラインに移行する場合には分散C時間割をそのままオンライン時間割に転用することを決定

●8/25(火)

分散C40分短縮6時間授業スタート

分散C（通常時間割1.2版）時間割の稼働。

●9/19(土)

「前期の成績について検討」（拡大総務部会）

- ・オンライン授業は授業時数にカウントしない。
- ・臨時休校中におけるオンラインでの学習は評価の対象とする。
- ・臨時休校中に学んだ内容については、対面授業開始後に再度学習する必要はない。
- ・出席すべき日数、授業時数が極端に少なくとも、今年度についてはやむなし。
- ・分散東京期間中の「出席停止・忌引き等の日数」もカウント対象。

●10/1(木)・2(金)・5(月)・6(火)

前期期末考査実施

- ・考査時間は50分間とするため、時間割を一部変更。

●10/5(月)

本年度の成績について、生徒・保護者に通知

●10/8(木)

「後期からの本校の教育活動について（ご連絡とお願い）」(PDF)を生徒保護者に配布

- ・10月16日(金)から「分散C」（45分短縮・全授業対面授業）開始の連絡
- ・4月作成の通常時間割（1.2版）時間割を流用
- ・《45分授業、休み時間10分》 週番朝礼 9:10
1限 9:20-10:05 2限 10:15-11:00 3限 11:10-11:55 4限 12:05-12:50
昼休み 12:50-13:20 5限 13:20-14:05 6限 14:15-15:00
7限 15:10-15:55 8限 16:05-16:50 (7限8限は第二外国語のみ)

●10/13(火)

成績会議実施、前期成績確定

3. まとめ

今回、コロナ禍という流動的な状況において「生徒の教育を受ける権利を保障するために、すべての生徒がひとしく、質の高い学習・教育活動を行うことができるよう、最大限の努力をする」という基本方針をもって対応を模索しながら進んできた。今年度の取り組みを一時的な対応で終わらせるのではなく、これらの経験を基に、「生徒の学びを止めない」ために、様々な緊急事態に学校全体で対応できる組織作りを行うことが大きな課題である。

オンライン授業について

—4月から7月末までの総括—

本校では2012年よりS G H（スーパーグローバルハイスクール）の取り組みによりG-suiteを導入し、平時より課題提出や生徒との連絡のために使用してきた。ただし、全教科・教員が実用化していたわけではない。4月以降のオンライン教育は、このG-suiteを軸に展開していくことになる。教科の特性や教員の趣向を反映させられるように、次の三つの方法でオンライン授業を展開してきた。

① テキストベース

Word、Excel、PowerPoint、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライドなどを活用しての課題説明と課題提出を行う方式

② 動画配信

mp4ファイルをGoogle クラウドを通じて配信、またはYouTubeの限定公開による配信を行い、課題を回収する方式。課題回収はGoogle フォームへの回答が多く実施されていた。

③ zoomを活用した対面授業

時間割を設定して、生徒全員が同時に顔を合わせたオンライン授業による方式。ブレイクアウトなどを活用しながらの授業展開が実施された。

オンライン授業を経て、校内でのICT化が一層進められ、普段からG-Suiteを活用していなかった教員もこれをきっかけに活用できるようになった。また動画の撮影などは、普段の対面授業にも応用できるなどの気づきがあった。9月14日に校内研究会を開き、オンライン授業を振り返る場を設けた。アンケートを実施したので、ここでは参考になりそうな質問項目を掲載する。

質問は次の三つ。

- A** オンライン授業を経て、通常授業に活かせることがあれば教えてください。
- B** オンライン授業を経て、改めて通常の対面授業でのメリットについてお気づきの点があればご記入ください。今回の経験で当たり前のところを見直すきっかけになったと思います。些細なことでも構いません。
- C** オンライン授業を経験して、お気づきの点や今後改善が必要なこと、困っていることなど、自由にご記入ください。個人のことでも全体に関することでも構いません。

教科・科目名	オンライン授業を経て、通常授業に活かせるようなことがあれば教えて下さい。	オンライン授業を経て、改めて通常の対面授業でのメリットについてお気づきの点がないと思います。ご記入ください。今回の経緯で当り前のところを直すまっかげにしたいです。ご意見をお願いします。	その他、オンライン授業を経験して、お気づきの点や今後改善が必要なこと、困っていることなど、自由に記入ください。個人のことでも全体に関することでも構いません。
国語	一人一台パソコンが前提になれば、授業中にclassroomが使える。	授業開始前に早目に部屋を開ける必要がない。生徒全員を俯瞰できる。	良い点がたくさんあるが、文部科学省がオンライン授業を授業時間として認めない限り、定着は難しい。例えば「分散型」の形式を正式に授業として認めてくれば、通称「Zoom」の解消という意味で、社会的貢献にもなる。
国語科		教科書・副教材以外の著作物を資料として使いやすい。	
国語(古典)	Googleフォームを活用できるようになりました。	生徒の反応をリアルタイムに身ながら進められること。授業前後に何気ない会話ができること。生徒理解につながる。	特に無し
国語・漢文(1年・3年)	課題の提出をGoogleのアプリを使って工夫することで、共有やフィードバックを効果的にできる。復習用、発展学習用、自学自習用、深掘りマニア用、などといった目的別に動画コンテンツを作る。	・即時の双方向性 ・生徒同士の思考の共有	・オンライン授業に取り組むには、生徒の自律性が必要な要素になるので、生徒自身にもその意識をしっかりと持たせていく必要がある。 ・取り組みを継続してしまおう生徒へのケアとして、怠惰なのが、考慮すべき事情(病氣、メンタル等)があるのか、の把握をどのようにしていくか。 ・紙ベースのプリントアウトが難しい、生徒のためのケア。
現代文	簡単な提出物や連絡などに便利だと思う。	やはり教室で同じクラスの生徒と学習することで、問題を共有し、他の生徒の意見や反応を感じながら自分の意見をまとめることができる。	家庭によって環境が違い、学習にストレスなく取り組める生徒とそうでない生徒の差は大きい。個人的には、評価やフィードバックの不十分さなど改善すべきところが多かった。
公民科・倫理 & 総合社会	特になし	反応が見えるところは対面ならでいいと思います。また、気になることを随時近くの生徒と共有したりできるのも対面授業だからこぞだと思います。生徒のつぶやきには興味深いものが見えたりするので、そのつぶやきを扱うことができるのはやはり対面授業にたいていあります。	
日本史B	Classroomでの課題の配付・回収やポータルフォリオの作成	空間を把握できること(生徒の理解度、反応(感情)、作業の進捗)、休み時間等での生徒同士の疑問の共有、学びあい教えあい	対面の授業をオンライン化したつ、オンラインを対面で補うようなハイブリッドな形がよい。 補習や自学などの意欲のある生徒への応用教材などはオンラインで行うことができて、修学旅行中の空きコマの解消など活用の余地がある。 生徒側の環境整備(家庭による通信環境と回線速度の差)は依然として課題。 オンラインで、もう終わっちゃうやうな感じがするよね、なんだったんだぞ、という意見の生徒も多い。普段の授業に苦がたいので対面授業ができないから仕方なくする一時的な位置づけの授業形態だと恐ろしい。
地理歴史科・地理A	GISの利用。	生徒の様子がよくわかる。	
地理歴史科・世界地理(3年)	とくにないです	生徒の様子を知ることが出来る	
数学	生徒は自分で問題を解きたいと思っていることに、改めて気づいた。授業プリントで解説動画やしたり、問題を解かせるときのヒントをテキストデータで入れたら良かったので、これからの授業でも意識していきたい。	対面授業では、発言しない生徒についても、机間指導をすれば様子を把握できるが、オンライン授業ではほとんどできなかった。生徒は、ちよつと分かったことや聞き漏らしたことを、対面授業では近くの生徒にすぐ聞けるが、テキストや動画配信の授業では全くできず、Zoomではチャットしか手段がなかった。この差は、非常に大きかった。	生徒の負担が、対面授業に比べて、オンライン授業は増えたと思う。アンケートで講師を全部出している生徒が約半分だったのは、重く受け止めるべきだと思う。教員が、現在当然と考えていることの中で諦めることを悔やして、対面授業のとまよよりも生徒の負担が大きくならないようにすべきだと思う。
数学	板タブの活用	授業を受ける生徒の様子がわからないところでの授業はやはりいい。	授業中の生徒の反応がわかりづらいので、気をつけないと通常授業より早く進みがちでした。
数学科	資料などを載せる・反転授業・休んだ生徒への対応・テスト返却など	リアルタイムに対面しているからこそ、生徒と教員のコミュニケーションや空感(生徒が理解したかを測ることができる)	回答が遅くなり申し訳ございません。もし足しになれば使ってください。
数学	授業でやり切れなかったことのカバーなどは動画が使えるようです。例えば、授業内容についての解説動画など。学力格差を埋めるのにはよいと思います。	授業の内容が伝わったかどうかの空感、やはり対面で行ってほじめてよくわかるものだと感じた。	多種多様なニーズに対応するよう動画コンテンツを少しずつためていくことと、今回のような空感への対応もスムーズとなるし、平常時でも豊かな教育活動の一助となると感じた。
数学	テスト返却の際、解説動画を作成したが、それは今後も行っていきたい。必要な部分のみ見ればよいという点で、授業で行うより効果的であった。	言い方が悪いが、学習能力の低い生徒でも、とりあえず全体の流れの中に孤立せずに存在できること。また、集団の力を借り、個人の学習能力を超えた学習ができること。実験・実習の経験は、オンラインで伝えることは不可能。	全員一律を求めると、ろくなことにならない。特に教員側。
理科	実験動画の制作のノウハウを取得したこと、実際にやるより効果的なのも目的の一つであった。		今回の期間に該当しない生徒には、今までの生徒に提供できていた体験的な学びの機会を用意できていない。その部分の回復方法をどうしたらよいか、困っている。
化学・化学基礎	実験データの解析や集計を授業以外の時間に行なえるかも知れない。		もうオンラインに戻りたくないですが、戻らざるを得なくなった場合のシミュレーションは必要だと思います。
物理(4年ab購)	オンライン授業に限らず、今年度は授業時間が減ったため、「本質は何か」を考え直す教材研究を重ねた。その経験は、今後の授業に活かせる。		

教科・科目名	オンライン授業を経て、通常授業に活かせるようなことがあれば教えてほしい。	オンライン授業を経て、改めて通常の対面授業でのメリットについてお気づきの点がないか、思い当たる記入ください。今回の経験で当たり前のところを見直すきっかけになったと思いませんか。詳細なことも構いません。	その他:オンライン授業を経験して、お気づきの点や今後の改善が必要なこと、困っていることなど、自由に記入ください。個人のことでも全体に關することでも構いません。
化学	知識や思考の方法に關して、授業を繰り返し確認したいという生徒が複数いることがわかった。実験室ではなく講義室で行う授業の際は、録画してclassroomに載せるようにしている。また、家庭の事情や体調不良などで私が休校してしまっている場合、オンデマンド配信をつまみ利用することで、学習補償がある程度、できるかと考えていて、今、その検証を高3の授業で行なっている。	生徒のリアクションが肌で感じられるところ。ライブで実験の様子を伝えられるところ(生徒もやはりライブは面白い)	
生物	G-suiteを授業の予習・復習に使いたい。	対面授業(特に実験)での生徒と教員、または生徒間でのグループ活動を通して、お互いに確認しながら作業を進め、理解したことをアウトプットすることがいかに大事かということ。	
英語	どちらかやるべきことは変わらない、そこはぶれてはいけなさと再認識。	お互いに顔が見えること。ペアワークなど、対面の方が生徒は活動を積極的に行う。	
英語科	課題の提出をフォーラムズを使っていることができると思いましたが、	対面の方が生徒の理解度がわかり、よいと思います。	
英語	資料をGoogle Classroomで提示することかもしれない。	みんなでおなじ場所にいる「空気感」がとおもいます。	
英語オーラルプレゼンテーション	これまで手書きで提出していたライティング課題などをすべてフォームにしたことで、その後の編集が便利になりました。大きく変化です。ただし、キーボード入力に慣れて以内生徒にとってはストレスなので、一概には言えません。	英語を話すことを目的としたこの科目においては、言語外の情報がコミュニケーションには重要、と意識し、笑い、視線、笑い声、ちよつとしたため息、全体の雰囲気など、声をかきとせられないzoomでは、集り合って話すので、コミュニケーション成立においてはやはり不自然な状況であったことは事実です。	
英語	Google ClassroomやFormを補充的に使う。Classroomに参考資料やプリント、授業スライドを載せて生徒に共有したり、課題の提出を紙ベースからFormsやDocumentにすることで共有が楽になったりこちらら業務がスリム化することと思う。	やはりオンライン授業では直に反応が見えないので勇えないので限界があるのだ、授業の内容がどのよう生徒に受け止められているのかわからない。モヤモヤがあの、今以前の半年ぶりに対面授業をしたが、生徒の実際の表情を見て実際の声に即座に気づいた。当たり前のことだけれど、人対人のコミュニケーションにおいて対面に勝るものはないと感じた。	
コミュニケーション・英語表現Ⅰ	対面授業で実施するべき優先事項の新しい内容に較ぶ意識を特につよに持って、オデマンの授業動画や解答解説、Classroom経由のプリント配信(全クラス共通のもの)など、今後がプレント形式にする予定である。	同じ空間、空間を共有することの大切さ、熱量を重視することが教育的に良いとは限らない、人と触れ合うこと(物理的)ではなく、様々な情報(互人や教師から取り取)ながらコミュニケーションを図る経験が人として大事であること。	
英語表現Ⅱ(2年生)	一斉連絡の方法、生徒からの提出物の回収方法などのハード面。教室で一方に行っているリスニングの練習を、各自でさせてみると意外に出来ていないこともあり、個々の違いが如実にわかった点。	あつためで、生徒同士も、教員も顔を見合わせて話すことの重要さを実感しました。zoomでは顔を見えない、生徒も顔も覚えていない、虚無感をお互いに感じるばかりの日々だったので、今更り返っています。	
コミュニケーションⅢ(3年生 全員必修)	生徒からのコメントを丁寧に扱うと、いろいろなことが見えてくる。感動的でした。これを毎回の授業では出来ないけれど、なんとか活かしたいです。	一緒に声を出す(声語)こと、隣とちよつと相談して答えを出すこと、など、何気ないことですが、日々の積み重ねは大きいと思います。	
保健体育科	Google classroomやFormsは対面授業内でも活用できると思っている。動画配信でも活用できると、出来ることももつと増えるだろうと感じている。	細かく生徒の姿、顔を見て対話しながら授業を行えることはとても重要だと感じる。面談など1対1はZoomと変わらないが、40対1の授業では、生徒の個別の様子や生徒の話し合いの過程を見て指導することなどは難しい。	
保健体育科	動画配信で一方の授業を経験して、より対面授業の重要さを感じた。	生徒の授業中の取り組みを目で見えて確認できることは、評価を正確に行うことにもつながる、教師が生徒の一人一人に的確に答えることにつながる、対面授業が重要である。	
保健	50分授業を15~20分の動画配信にしていたので、通常授業でも内容を精選するなど教える工夫を工夫することで、課題を見つけたら話し合い活動に時間をあてることができた。	生徒の様子を一度に見られるところ。	
家庭科	Googleclassroomを通しての資料配付や提出物の管理。	情報の対面授業では、近所の人と相談したり助け合ったりしながら作業することや日常的に行われていますが、それができない生徒個人での孤独な取り組みになっていたのは、コンピュータの扱いが不得意な生徒にとっては辛いのではないかと思っています。また対面授業では、tubeやニコニコ動画を観ながら説明することがあったのですが、オンラインだとそれは著作権的に難しいので、カットしたりタイトルにしたりして内容を変更したところがありました。	
情報科・情報の科学	授業中に説明しきれなかったことや上級者向け・初心者向けの補足説明については動画にしておいて、みたい人はどうぞ〜とっておくことは今後でも使えそうです。	教材を早通し良いきっかけになったと思います。動画、スライド、ドキュメントにまとめておいた方がいい、その際も、卒業した生徒への対応がもっと手厚く、やりやすくなるはず、いろいろな教科の取り組みを共有、活用して、方まで、必ず時間を授業内容を考えている時間にして、労働時間の短縮を進めたいなと思えます。	
音楽科	合唱の各自練習など、各パート音源をオンラインでのツールを活用して各自に渡すことができるので、より練習効率を上げることが期待される。	対面授業(特に実験)での生徒と教員、または生徒間でのグループ活動を通して、お互いに確認しながら作業を進め、理解したことをアウトプットすることがいかに大事かということ。	

<p>教科・科目名</p>	<p>オンライン授業を経て、通常授業に活かせるようなことがあれば教えてください。</p>	<p>オンライン授業を経て、改めて通常の対面授業でのメリットについてお気づきの点がございましたらご記入ください。今回の経験で当たり前のところを再認識できた点も思いま。些細なことでも構いません。</p>	<p>その他:オンライン授業を経験して、お気づきの点や今後改善が必要なこと、困っていることなど、自由に記入ください。個人のことでも全体に関することでも構いません。</p>
<p>美術科</p>	<p>Googleスライドやドキュメントを活用した制作過程の記録方法は、効果的に活用できる。制作方法の指導の際に手帳や道具の扱い方などを動画に撮影しておくことで密を遂げる形で全体指導ができる。</p>	<p>アナログな体験価値をオンラインで共有することの難しさを経験し、教室での通常授業のよさを確認できました。同じ空間を共有しながら目の前で実践的な指導においても動画配信では伝わらないものがあるということがわかりました。素材や道具を身体を通して扱うときの感覚的な指導も当たり前に行っていました。教室での対面ならではのものがたどってきた。あとは、当たり前で生徒の反応を見ながら進められることでしょうか。</p>	<p>今後またオンラインの授業が必要になった際は、unityで制作した学校を舞台にそれぞれがアバターとして仮想空間に参加して授業を行うという取り組みをしてみるのはどうでしょうか？</p>
<p>工芸</p>	<p>ICT化すべき点を考えていくきっかけをもらった。私自身、図面ははじめは手書きで学んでいくものと教わっていましたが、ここには別の価値があるもの。一方でソフトを使いこなすことで分解できるものがあるならば、その先の問題へつながることがある。むしろ、そのような場面ソフトを駆使して創作する技術や楽しさを取り入れる必要が生徒のためになっくと感じました。自身の研修が必要です。</p>	<p>素材・技法の扱い方全般において空間を共有しているからこそ伝わるものがあるということ。</p>	<p>WiFi環境の整備 一人1台のPCタブレット 教員の研修(活用方法)</p>
<p>総合・15分</p>	<p>画面を共有しながらのグループ活動は通常授業のカメラがないPCでも有効だと思いました。</p>	<p>ワークシートに書き込む等の作業をしながら話し合う活動はオンラインのほうがいいですが、0からアイデアを話し合う活動は対面の空気が大事だと思いました。</p>	

機器整備・問い合わせ対応について

コロナ前の校内の機器整備状況

本校では2014年度よりG Suite for Educationを導入しており、1学年の情報の授業においてアカウントを配布してきた。同年スーパーグローバルハイスクールに指定され、2学年以降のグループ研究活動での利用を想定してWindowsタブレットを45台導入したが、台数が足りないのでChromebookを順次追加導入してきた。2019年度末の時点では約130台のChromebookが稼働しており、主に総合の授業で利用していたが、生徒が学校生活の様々な場面で使えるように自由に貸し出しをしていた。

G Suite for Educationの利用習熟度については、生徒は1学年の情報の授業で年間を通してGoogle Classroomで課題のやり取りをし、レポートやスライド作成もG Suiteをメインとして利用させていたので、一通りの操作には慣れている状況であったが、情報科以外の教員は、一部の教員のみ利用にとどまっていた。

機器整備に向けての準備

2020年3月2日に、3月19日までの休校が決定したのちに、全校生徒を対象として家庭で自分のG Suiteアカウントのメールが確認できるかどうかの調査を実施した。この調査でほぼ全ての生徒が家庭でメール確認できることがわかり、一部のメールが確認できない生徒については担任にフォローしてもらった。また、Google for Education遠隔学習支援プログラムの端末貸し出しに申し込んだが、全国から申し込みが殺到している時期で、いつ端末が届くのかは分からない状況であったが、LTE付きChromebookを借りられることとなった。

新入生に対しては4月上旬に郵送でG Suiteアカウントとログインの仕方を記載したプリント（次項の図参照）を配布し、自宅から担任に自分のアカウントのGmailでメール送信してもらった。これにより新入生の状況がある程度把握できた。その後、Google Formsを利用して自宅のインターネット環境についての調査を全校生徒を対象に実施した。フォーム未回答の生徒については電話で追跡調査を実施し、全生徒の回答を把握することができた。調査の結果、約1割の生徒について、インターネット環境及び端末について支援が必要であることがわかった。

ここまでの準備が比較的スムーズにできたのは、生徒が日頃の活動でG Suiteの利用に慣れており、総合の授業でGoogleフォームを自分で作成する実習を全員が体験していたことが大きいと考える。



新生に配布したプリント

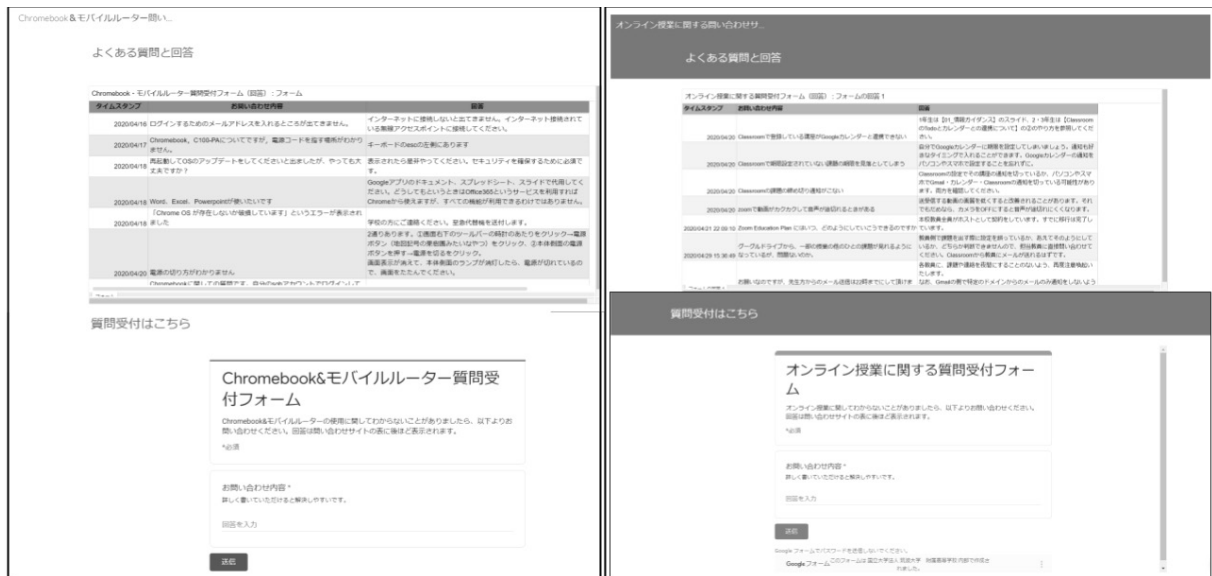
機器整備の実際の流れ

生徒への支援として、インターネット環境については「縛りなしWi-Fi社」のポケットWi-Fiを1日2GBプランで学校としてレンタル契約したものを貸し出し、端末については以前から校内で利用していたChromebook (ASUS製C100PA/C101PA)を貸し出すこととした。4月18日に各家庭への発送を行い、各教科で始まった課題配信・オンライン授業に対応できる環境を整えることができた。

しばらくすると、以前のインターネット環境調査の際は支援の必要なしと回答した生徒から、自宅で保護者がテレワークをしていて自由に端末が利用できないという申し出や、貸し出したChromebookに不具合が発生したという連絡が来たので、追加貸し出しを実施した。

問い合わせへの対応

貸し出し対応をしている最中に、ポケットWi-Fiを貸し出している他の附属学校で、使用方等の問い合わせの電話が殺到しているという情報を得た。本校はChromebookも貸し出ししており、さらに多数の問い合わせが来ることが予想された。電話対応をできるだけ減らすため、質問用のGoogleフォームと過去の質問・回答が見られる表を埋め込んだWebページをGoogleサイト（次項の図参照）を利用して作成した。



Googleサイトで作成したChromebook & モバイルルーター・オンライン授業に関する問い合わせサイト

オンライン授業用問い合わせサイトも同様の手法で作成して運用した。こちらはZoom関連の問い合わせが主となっていた。ページ下部のフォームから問い合わせが入力されると、担当者にGmailで通知が届くように設定しておいたので、素早く回答することができた。問い合わせへの回答はフォームの回答が集計されているスプレッドシートに直接書き込んで行う。過去の問い合わせ内容と回答をページ冒頭に置いて見やすくしたことで、重複する問い合わせを避けることができたため、大きな混乱は発生しなかった。実際の問い合わせ件数はそれぞれ10数件程度であった。

偶然にも今年から1月下旬～2月下旬の情報の授業で、Googleのサービスを組み合わせて学校の問題を解決するというテーマでのプロジェクト実習を行っており、生徒が作成していたGoogleサイトの実践例が問い合わせサイト作成の際、非常に参考になった。見た目を細かく調整することは難しいが、アイデアを素早く簡単に形にできるので、Googleサイトについては今後も利用方法の検討を重ねていきたい。

Zoom の導入・環境整備とその活用

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、本校では 2020 年度当初から遠隔型のオンライン授業の実施に踏み切った。遠隔型のオンライン授業の学習形態としては、大きく ①同時双方向型の授業と ②オンデマンド型の授業 があげられる。①の実施を可能にしたのが Zoom であり、その導入の経緯やセキュリティについて述べる。

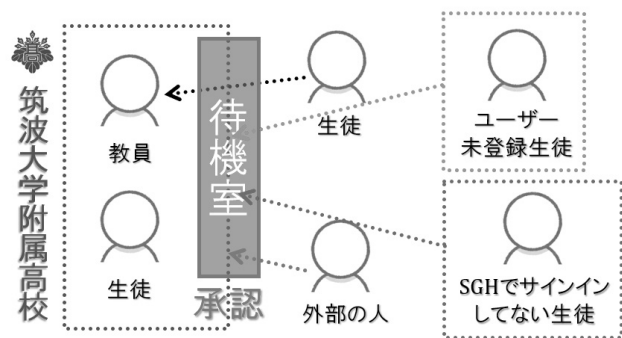
2. Zoom 導入の経緯

本校では従来、生徒と教師、もしくは生徒同士による対話を大切にしていた授業が行われてきた。オンデマンド型の授業は、生徒の好きな時間に自分のペースで学習を進めることができるが、対話が生まれにくいことが難点であった。そこで、Web 会議システムを導入し、教師と生徒が同時にコミュニケーションできる環境下で行う授業を目指したのである。

Web 会議システムの中でも本校が着目したのは、Zoom ビデオコミュニケーションズが提供する Web 会議サービス「Zoom」と Google LLC が提供するビデオ会議アプリケーション「Google Meet」である。本校は G Suite for Education を契約していたこともあり、Google Classroom との連携を考えて Google Meet の運用も検討したが、Zoom の方がデータ通信料が少なく、「ブレイクアウトルーム」などの様々な機能が搭載されていることから Zoom の運用に踏み切った。4 月中旬には Zoom の教育プランを契約し、教員 41 人分のアカウントを取得した。授業だけでなく、教員による職員会議や企業との打ち合わせ、オンライン研究会などでも使用し、欠かすことのできない存在になった。

3. セキュリティについて

教育活動の一環として、外部のアプリやソフトを使う場合には、生徒が安心・安全に使えるように保障することは肝要である。例えば、Zoom の教育プランでは「ユーザー登録」という機能があり、ミーティングの参加者をユーザー登録した人に限定することができる。右の図の



ように、ユーザー登録されていない人は待機室に送られるため、部外者がミーティングに参加することはない。「ユーザー登録」以外にも「登録」という機能も併用しており、セキュリティ面の対策手段を対外的に説明できるように環境を整えることができた。

休校期間における学校保健の取り組み

—心身の健康の保持を目指して—

1. はじめに

一般的に、長期休業中は生活リズムの乱れが生じやすい。特に、睡眠の乱れは本校の大きな健康課題の一つであり、養護教諭として日常的に支援を行っている。また、新型コロナウイルス感染症における危機的状況の中では、精神面において“不眠”や“無気力”等のストレス反応が出る場合があり、課題への取り組みにも影響を及ぼしやすい。さらに、長引く自粛生活の中で、他者とのつながりの希薄化による孤立感や、スマホ等を中心とするインターネット依存など、様々な問題行動の増加も予想される。このような身体的・精神的・社会的側面から学校全体で予防的取り組みを進めることは、登校再開後のスムーズな学校生活への適応にもつながる。今回は、主に養護教諭として学校保健の立場から関わった、校内におけるプロジェクトチーム（以下、PT とする。）内での活動について述べる。

2. 実践内容

- (1) “生活リズムの確立”という視点からのオンライン授業の組み立て
- (2) 学習面・生活習慣についてのアンケートの実施
- (3) アンケート結果の分析と保護者・生徒への周知
- (4) ほけんだよりの発行
- (5) メンタル面での要配慮生徒への支援として、アンケート結果の校内支援教育推進委員会・スクールカウンセラーとの情報共有

3. 成果と課題

4月中旬に行ったアンケート結果より、休校期間1カ月の時点で、すでに生活リズムの乱れや心身の不調を抱えている生徒が多くいることが分かった。急激な環境の変化が心身に及ぼす影響は大きく、生徒個人が自分の力のみで毎日の生活リズムを確立させることは難しい。PTのミーティングの際にも、特に朝の活動を充実出来るような働きかけを行い、保健体育科によるZoomによる朝体操やオンライン時間割での授業が開始されるようになった。これらは生活リズムの確立の一助となっていると推察される。また、精神面において配慮が必要な生徒の早期発見・早期介入を目指し、担任による定期的なHRによる健康観察と、スクールカウンセラーによるZoom面接も開始された。

心身の不調に対しては、長期的で広い視野による働きかけが必須である。今後も保護者・教職員・学校医等と連携し、学校全体で生徒を支える支援体制の構築を目指す。

生徒対象アンケートの実施

1. 生徒対象アンケート実施の経緯

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、本校では2020年度4月11日よりオンライン授業を開始した。その頃、3月から続く休校、そして生徒にとって慣れないオンライン授業や先の見えない不安などから、生徒の心身の状態や生活の乱れについて以下のような懸念があった。

(生徒状況についての懸念点)

- ①身体面…一般的に、長期休業中は生活習慣（特に睡眠）が乱れやすい。
- ②心理面…現在の危機的状況では“無気力”等の心理的症状が出ることもある。
- ③社会面…他者とのつながりの希薄化による孤立感や、心身の不調による問題行動の増加の危険性。

以上の点に対応するため、オンライン授業の開始1週間を機に生徒対象アンケートを実施し、生徒の心身の健康状態や生活状況、そして、オンライン授業への取り組み状況や感想を調査することとなった。その後、授業・学校への登校形態が変化するたびにアンケートを実施し、生徒の状況の変化を調査した。

2. 実施日程

- 第1回目：4月17日（金）～20日（月）…オンライン授業開始から1週間後
- 第2回目：5月22日（金）～24日（日）…オンライン授業完全実施から2週間後
- 第3回目：8月3日（月）～5日（水）…分散登校開始から2か月後

3. 実施方法

- 作成方法：全3回とも、Google Forms で作成
- 配信方法：第1回目は全生徒の sgh メールへ配信
第2回、第3回は各学年で設置した Google classroom で配信

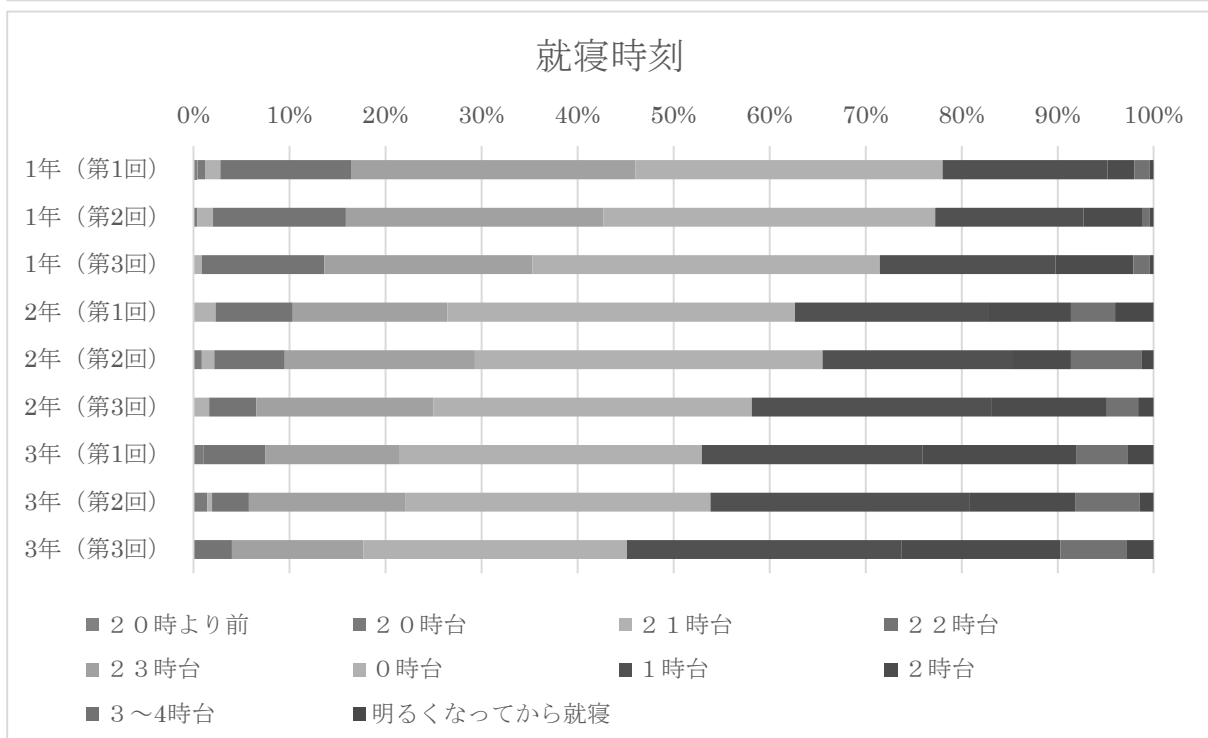
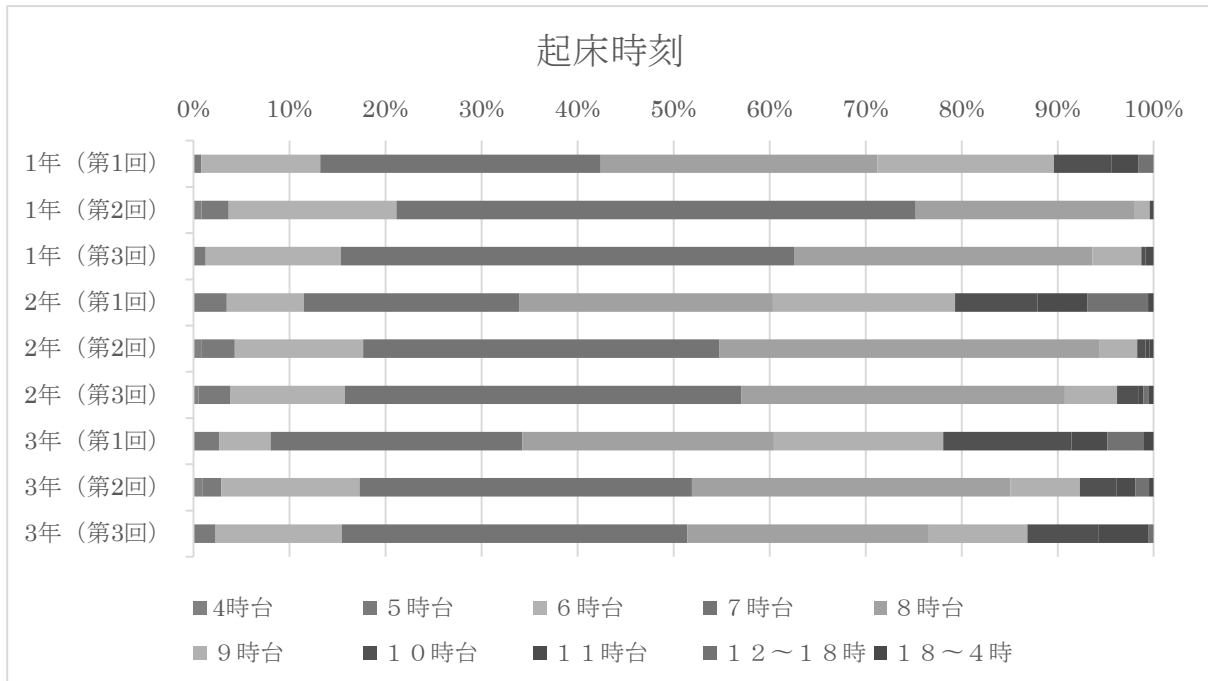
4. アンケート項目

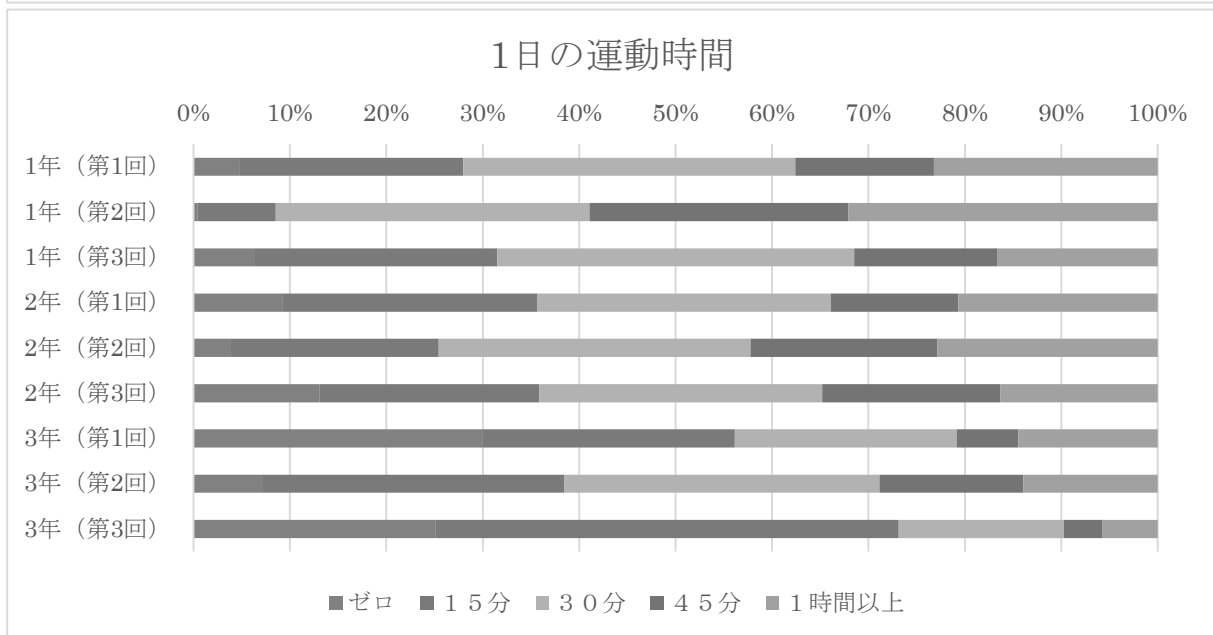
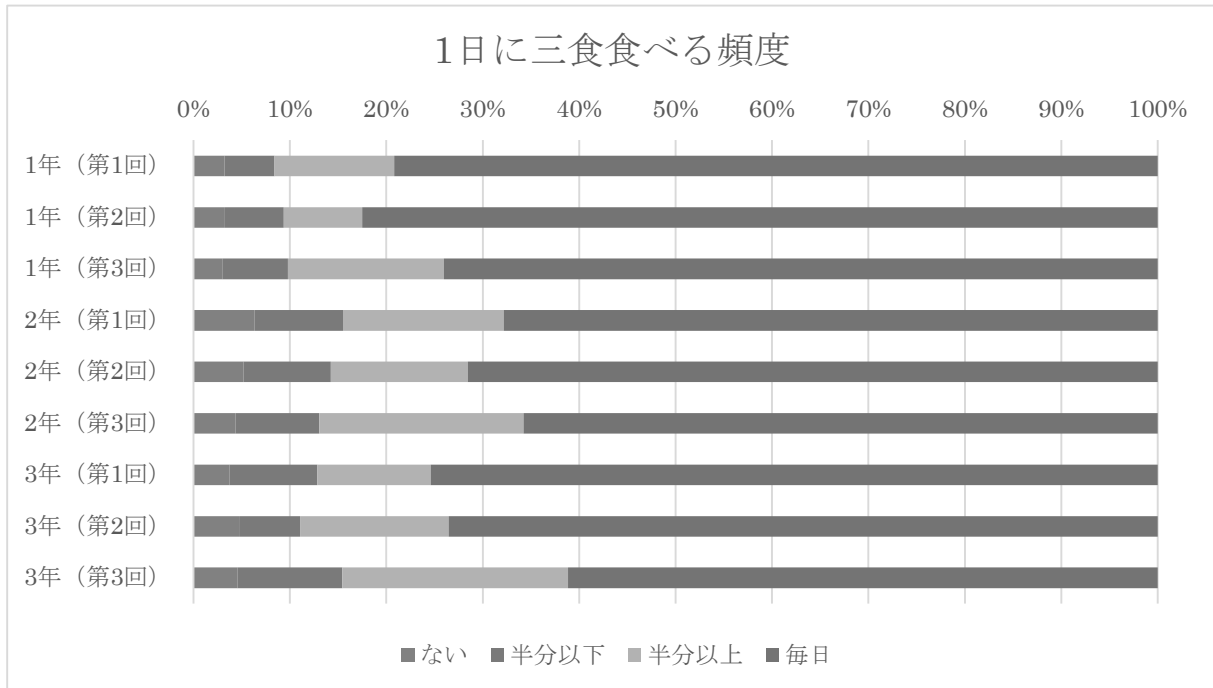
- 健康管理：心身の健康状態、健康観察の習慣の有無
- 生活リズム：起床時間、就寝時間、睡眠時間
- 食生活：朝食や欠食の有無
- 運動習慣：1日の運動時間、

- 学習：学校内・学校外の課題に取り組んだ時間、課題提出状況、学校からの配信連絡の確認状況、オンライン授業の負担感、授業への要望や感想

※質問項目は全3回で大きく変化させず、経過を追えるようにしたが、時期によって項目の変更・増減などの微調整を行った。

5. アンケート結果と考察 ※特筆すべき項目のみ記載



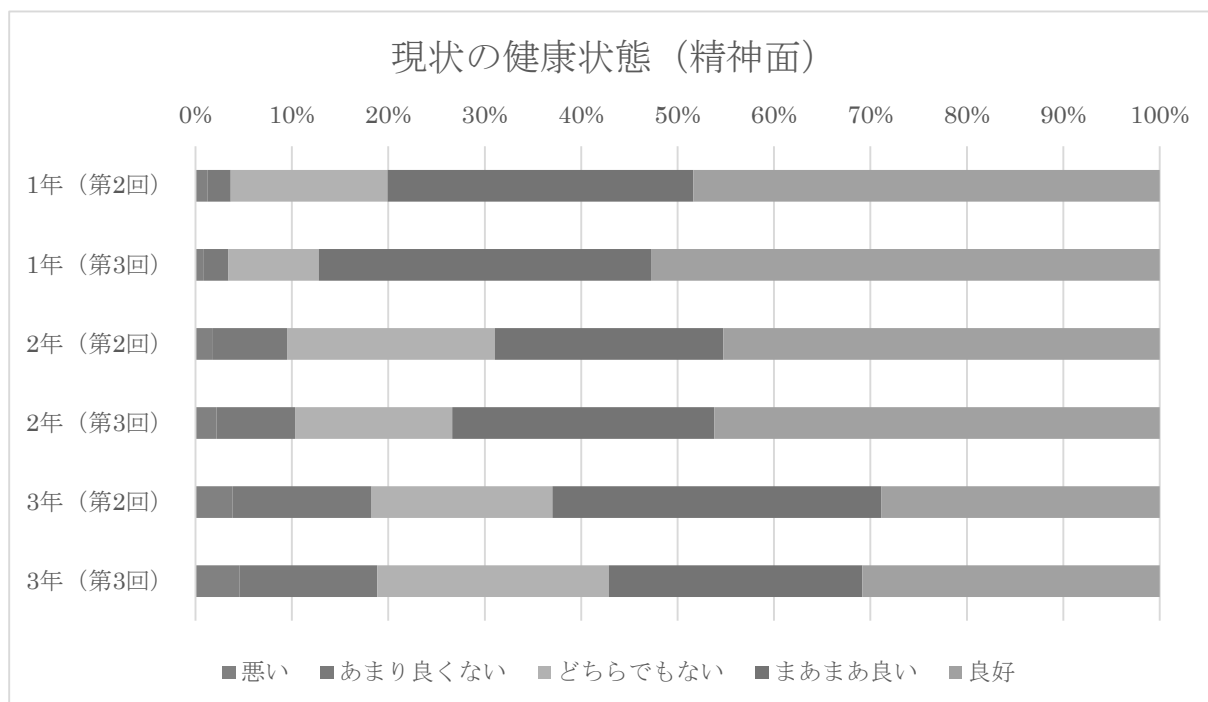
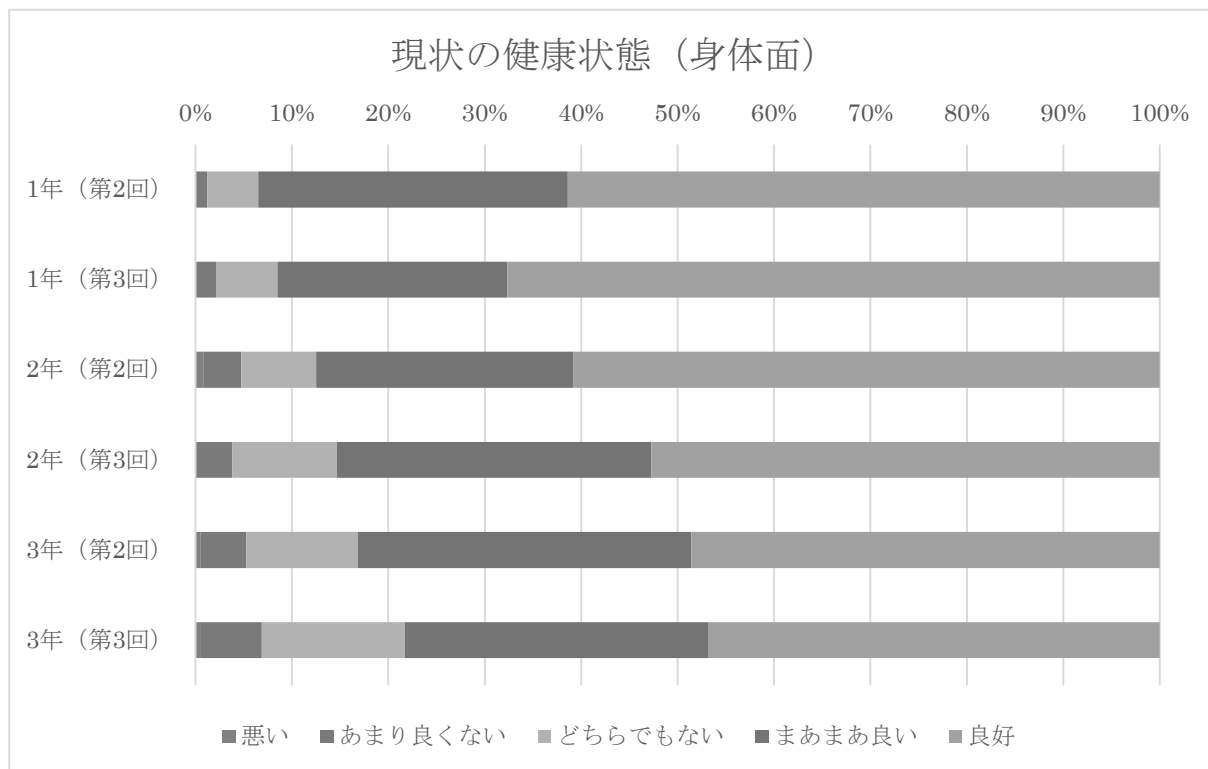


1) 生活習慣について

- 起床時刻は、休校中に比べ、オンラインが始まった際に全学年で早まったが、分散登校が始まってからやや遅くなる傾向が見られた。また、学年が上がるにつれて、起床が遅くなる傾向もあった。
- 就寝時刻は、オンライン授業、分散登校と段階が進むにつれ、徐々に遅くなる傾向が全学年で見られた。また、学年が上がるにつれて就寝が遅くなる傾向も見られた。
- 食生活については、毎日三食食べる割合が全学年で減っている。
- 1日の運動時間は、分散登校が始まってから全学年で減少傾向が見られる。

⇒オンライン授業、分散登校と段階が進むにつれ、学校内外の課題が増えたり、登校の

負担がかかったりしたことで、睡眠時間の減少や、欠食の増加が起こったことが考えられる。また、運動時間は、保健体育科の課題や朝体操や授業の増減に大きく影響を受けていた。朝体操やオンライン中の運動実践課題は、生徒の運動実践につながっていたことが分かる。

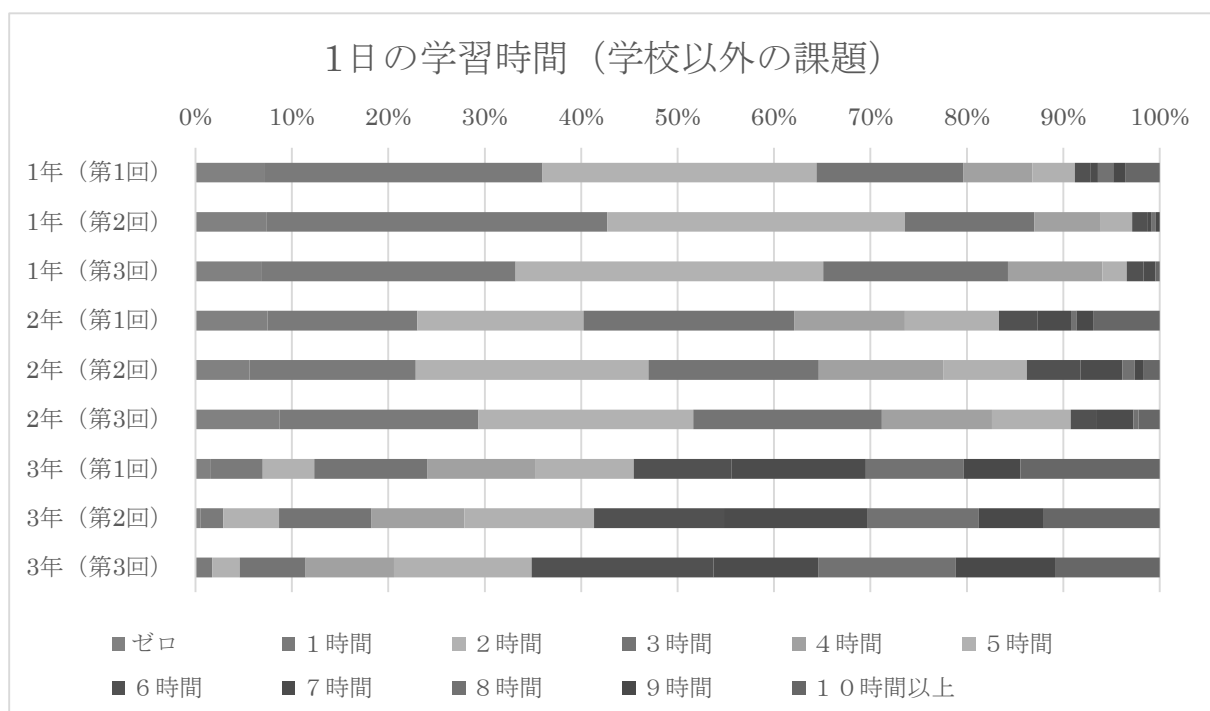
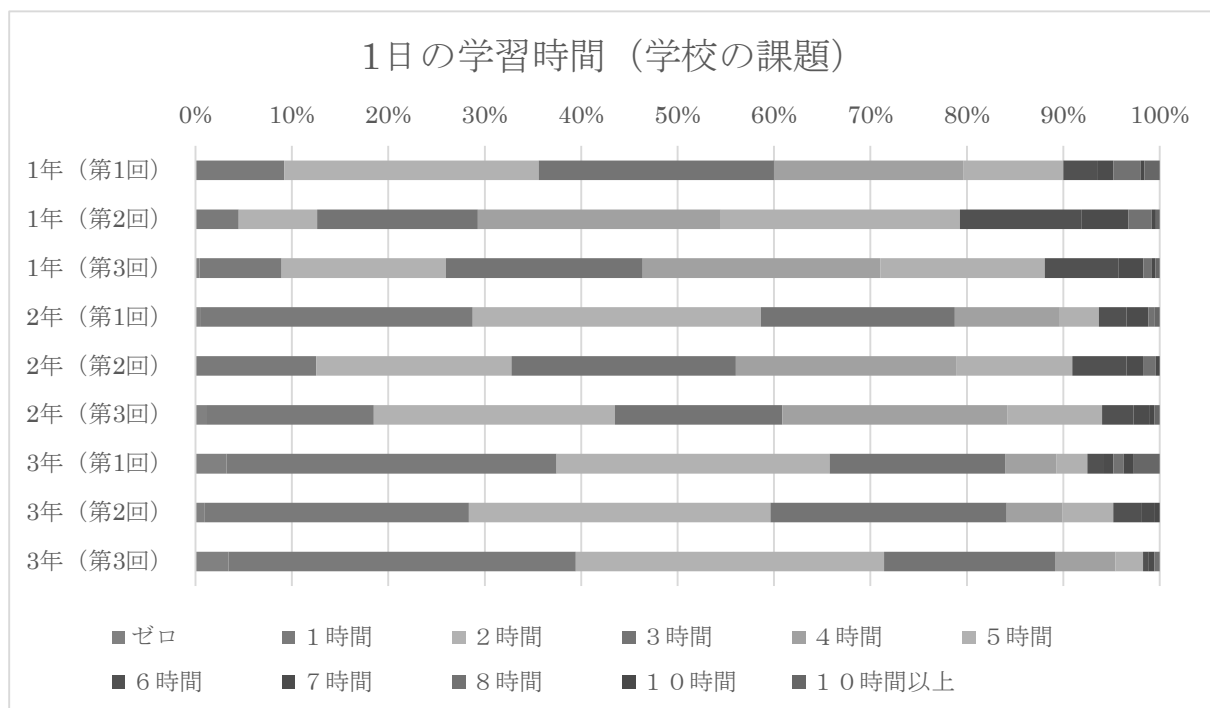


2) 心身の健康状態について

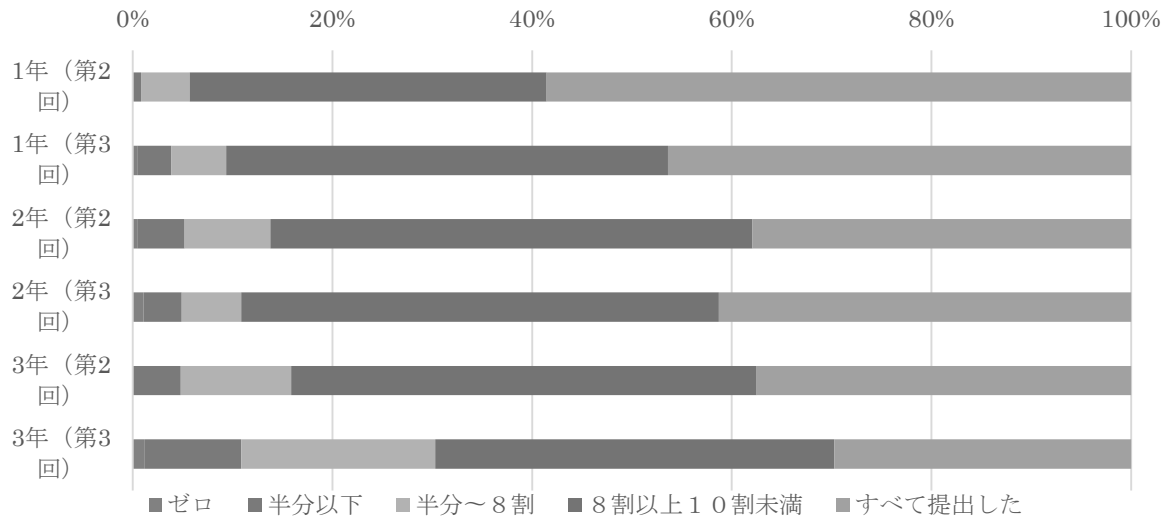
➤ 不調の訴えは学年が上がるにつれて増加する傾向があった。

▶ 全学年で身体面より精神面の不調が多い。精神面の状態は1, 2年ではやや改善が見られるが、3年生はやや悪化した。また、身体面ではやや悪化傾向が見られるが、8割近くがまあまあ良い以上であることも分かった。

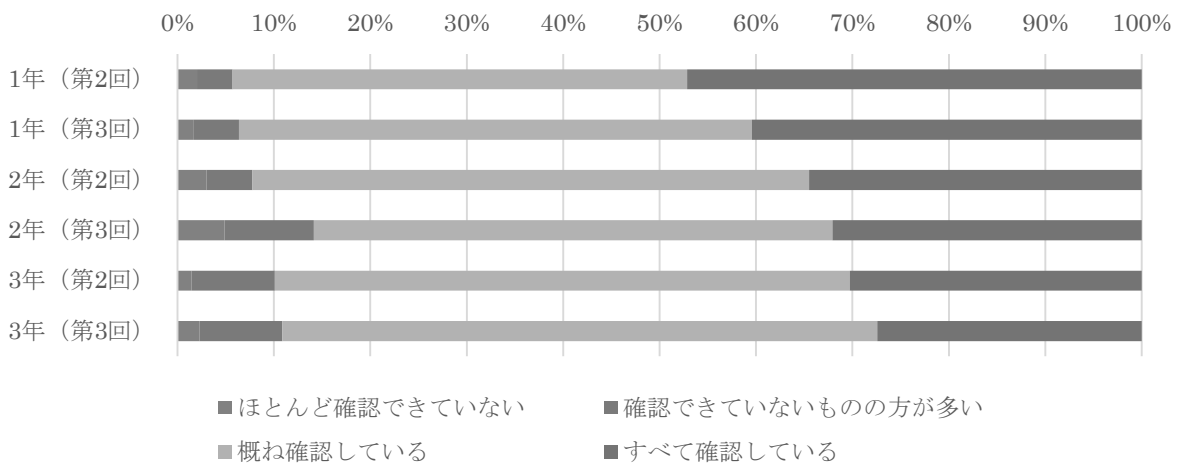
⇒分散登校中の登校授業回数は1年=2年>3年である。回数が多いほど、若干の身体的な負担はかかるが、精神面で好影響がでる傾向があると考えられる。また、3年生は受験が近づいていくことへの不安があることも考えられる。



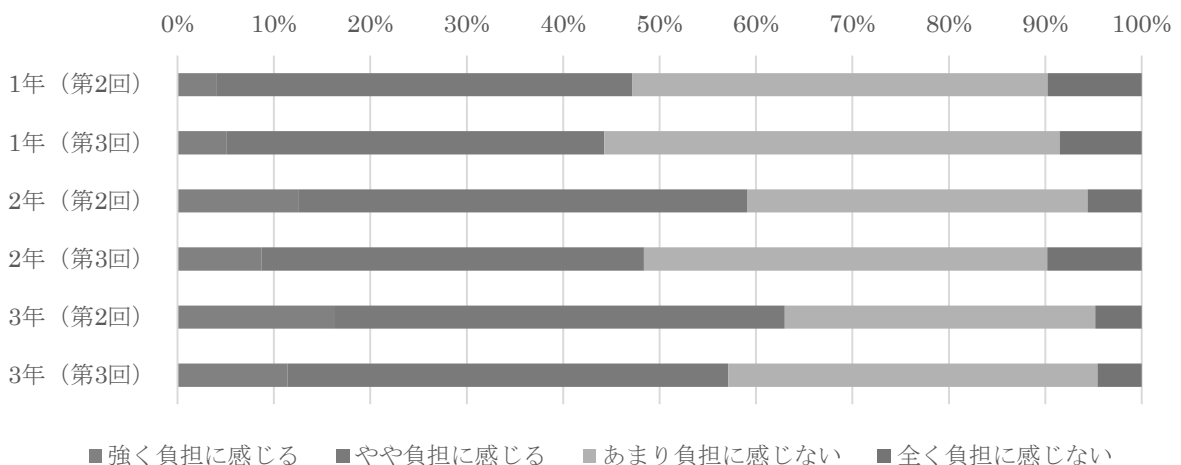
締め切り日までに提出された課題の割合



学校からの課題を確認できているか



授業への負担感



3) 学習について

- 学校の学習時間について、オンライン授業が始まったことで一時的に増えたが、分散登校が始まってからは全学年で減少した。
- 校外の学習時間、1年生と3年生は増加傾向、2年生減少傾向
- 課題の提出状況は、1，3年で悪化している。(特に3年生) 2年生は若干改善傾向がある(?)
- 学校からの連絡を全て確認しているのは半数以下であり、前回よりも減少している。
- 両グラフ：ゼロ、半数以下も = ケア必要・怠惰とは限らない
- (2，3年はアンケート回収率が80%以下のため、この項目は特に、より悪い状況になっていることが考えられる)
- 学年が上がるにつれ、負担感増加の傾向
- 前回よりも負担感は減少している
⇒登校授業増で自宅学習課題が減っている影響も考えられる。

5. まとめ

新型コロナウイルスの感染状況に関わらず、「適切な教育活動について検討する際に、生徒の実態（生活や学習の状況など）を把握することは重要である」ということを実感する機会となった。特に、オンラインでの実施は、素早く調査を実施できる点や簡易に集計できる点でも有益である。これまで行った全3回のアンケートに引き続き、第4回以降も生徒の実態調査を適宜実施し、教育活動に生かしていくことも検討したい。

オンライン研究会

—G Suite for Education & Zoom を活用した「オンライン授業」—

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症防止策として4月よりオンラインによる授業が始まった。約2か月の筑波大学附属高校における5月下旬までのオンライン授業の実践を広く共有するとともに、今後の生徒の学習のあり方について、全国の先生方と情報交換、意見交換を行う場を以下のように設けた。

開催日	5月30日(土) 10:00~11:30
主催	研究教職部・休校期間中の家庭学習プロジェクトチーム
参加者	296名(本校教員含む300名申し込み)
勤務先校種	小、中、高、大学・短大、専門学校、その他
内訳	国語(35人) 数学(44人) 英語(35人) 理科(52人)
	地歴公民(91人) 芸術・情報・家庭(19人) 保健体育(20人)
タイムテーブル	
①挨拶	
②本校の取り組みの紹介	
③各校の情報交換(15分)	※ブレイクアウトルーム(ディスカッション)
④実践紹介A(漢文)実践紹介B(物理)	
⑤教科ごとの情報交換(30分)	※ブレイクアウトルーム(ディスカッション)
⑥質疑応答(5分)	
⑦終わりのことば	

全体会終了後、希望者が残り、本校教員との質疑応答の時間を設けた。本校ホームページや各種学会・研究会を通して募集をかけたところ、4日間で小学校・中学校・高校・大学・その他団体から約300名の参加があり、オンライン授業の関心の高さを表していた。

2. オンライン研究会

(1) 募集方法について

本校ホームページ、各教員の所属する研究会・学会等への声かけを通して、申し込み方法 Google Forms を使った。

(2) 役割分担

総括4名はトラブル対応も含め、十分な距離を確保して一部屋に集まり、教科ごとの担当者はオンラインによる参加とした。

・司会進行 1 名

・システムコントロール 3 名

トラブル対応、チャットによる質問対応、スポットライト切り替え、待機室からの入室許可、ブレイクアウトルーム割り当て、教科別分科会のトラブル対応等。

・各教科分科会担当 1 2 名（各教科 2 名）

1 人ずつ共同ホストにすることで、分科会での画面共有等がスムーズにできるようにした。分科会では Zoom のブレイクアウトルーム機能を使い、参加者の担当教科ごとに行い、実践発表で扱わなかった教科では、それぞれの実践の一部を紹介して参加者とディスカッションをした。

(3) 参加者

中学高校からの参加者が大半を占めた（高校 61.7%、中学 18.8%）。「③各校の情報交換」では、Zoom が初めて、またはブレイクアウトセッションが初めての参加者もいることが予想されたため、15 分間、参加者の勤務校の現状を共有するためにブレイクアウトセッションを実際に参加者に体験する場面を取り入れた。そこでは、議論が活発になり、もっと多く時間をとってほしいという声もあった。

3. 実践紹介

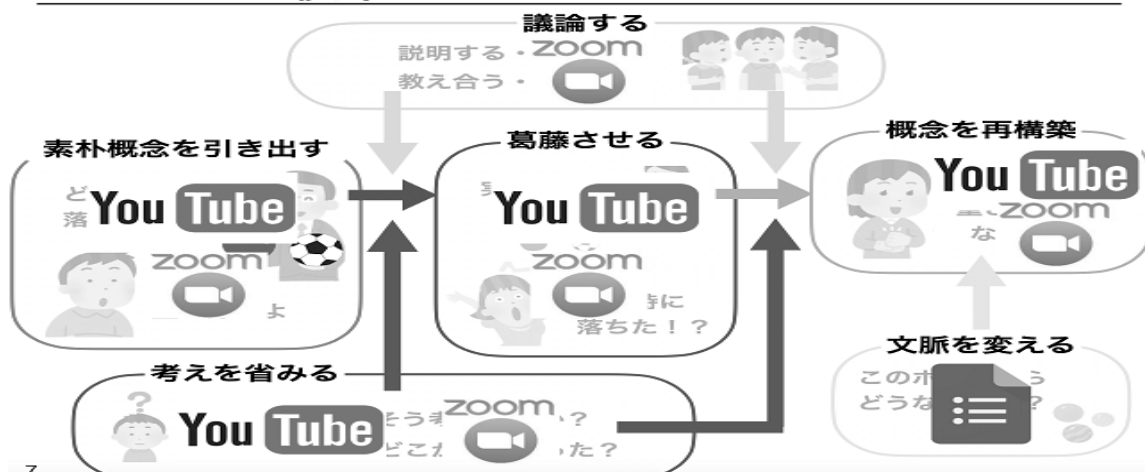
(1) 理科 勝田仁之 教諭

① 担当科目・学年 物理基礎 高校 2 年（6 クラス）

② 概要

高 2 物理基礎の実践報告を行った。オンライン環境では教室の収容人数による制約がないので、全クラス同時に授業を配信した。月・水曜日に YouTube、金曜日に Zoom で配信した。毎授業後には、Google Forms で課題を課した。報告ではまず、通常授業において、目標である「素朴概念の克服」を、どのように実現しているかを授業構成とともに述べた。そして、授業構成の各要素を YouTube, Zoom, Google Forms のそれぞれで、できること／できないことに分類し(図参照)、実際の授業画面や生徒の回答とともに示した。

オンライン授業でできること



(2) 国語（漢文） 畑 綾乃 教諭

① 担当科目・学年

漢文（古典B）：高校1年（6クラス）／漢文（古典B）：高校3年（4クラス）

② 概要

オンライン時間割に各クラス週2コマ配置し、週2回の動画配信授業を実施。

(ア) YouTube 限定公開動画を視聴する

PowerPoint「スライドショーの記録」（アニメーションとペントップ併用）＋ホワイトボードを使って撮影した動画を編集。「課題」に、URLを添付。内容は、漢字文化の形成など文字文化の歴史、漢文読解に必要な知識とその演習、文章の読解と考察等。動画の作成にあたっては、複数の種類のコーナーで構成し、見ながら行う作業の指示や、豆知識など知的好奇心を刺激するための要素を入れることを心がけている。

(イ) プリントに書き込みながら学習する

Google Classroomの「課題」に、(ア)とともにPDFワークシートを添付。内容は、動画を見ながら書き込んでいくことで理解を助けるためのもの、考察等の応用課題、動画を見る前に予習として行うものなど。

(ウ) Google Forms で取り組みチェックとコメント記入

生徒の学習状況を把握、考察等の課題の回収。

③ 授業実践の検証

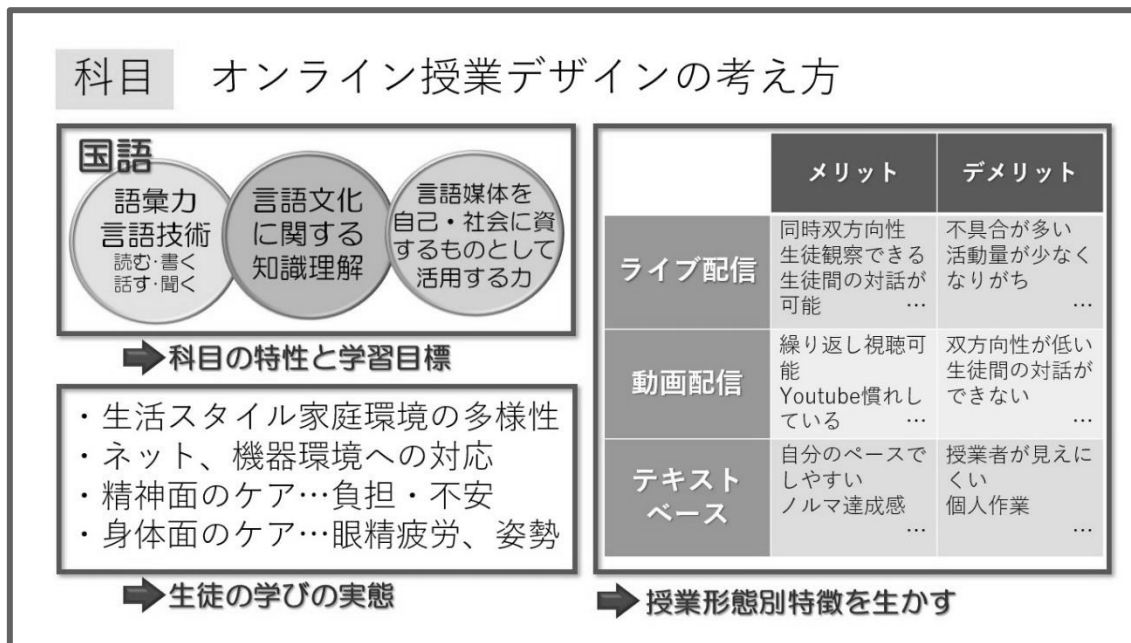
- ・アンケート（中間振り返り）の結果を分析し、授業デザインに反映させている。
- ・難易度、かかる時間、分量、興味関心、授業形態への希望等、現状反応は良好という状況。

④ 動画配信授業で意識すべきこと

- ・ルーティンの安心感、見通しを持たせる。
- ・その1時間で何を身につけるかを明確にする。
- ・必要な知識を身につけさせつつ、知的好奇心による興味関心を引き出すし、飽きさせないように構成する。
- ・双方向の要素をなるべく入れる（「質問への回答」「考察の共有」等）。

⑤ オンライン授業デザインの考え方

- ・科目の授業デザイン



- ・学校全体の授業デザイン



4. オンライン研究会を実施して

オンラインによる開催のため、多くの地域から参加された。研究会後のアンケートを見ると、全体的に好意的な反応が多かく、「この時期（5月）に実施したことに価値がある」、「このような取り組みはぜひとも企画していただけると良い」、「オンラインでの開催は場所の制約を受けないので、誰もが参加しやすい」等の意見が多く見られた。参加者の満足度が、4.43（5段階評価）（アンケート回収率67%）と高い評価を得た。

教員が参加者としてZoomに参加したことにより、生徒の立場を実感し、以下のようなオンラインのライブ授業による問題点も上がった。

- ・「1時間半ほどのオンラインでの研修会でしたが、身を以て感じたのは、普通の研修会よりも体への負担感が大きいということでした。オンライン授業がライブかライブでないかと考えていたのですが、1日に受けられる（オンラインによる）ライブ授業には限りがあると感じました。生徒の気持ちも感じる事ができた研修会でした。」

この研究会では、分散登校やオンライン授業といった正解のない取り組みの中、奮闘する教員同士が、悩みやアイデアを共有する場となった。「日本各地で、それぞれ先生方が試行錯誤している様子が伝わり、自分だけでないのだ、と勇気をもらいました。また、アプリやオンラインのシステム情報の交換のとても役立ちました。」そして、初めてZoomを体験した参加者にとっては、ブレイクアウトルームセッションやChatを活用したことで出席者が議論に参加できたことが参加者の満足度を高める一因になったのではないかと考える。評価方法など、今後の課題についても残された。

教科外活動の指導

—生徒会、委員会活動に焦点をあてて—

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、本校では 2020 年度当初から夏休みが始まる 4 カ月間全校生徒が一斉登校することはなかった。ただその中でも、7 月下旬には生徒総会を開催することができ、その間の生徒会の活動について説明する。

2. 新入生歓迎サイトの立ち上げ

本校では例年、入学式の翌日に対面式と新入生歓迎会を行い、生徒会や委員会活動、部活動の紹介を行っている。休校のため対面で行うことができなくなってしまったが、何とか新入生の本校の諸活動のイメージをもってもらいたい



という思いから、新入生歓迎サイトを立ち上げることにした。各団体に 1 分程度の紹介動画を作成してもらい、Google サイトでその動画と活動日、活動場所、主将の SGH アカウントを公開した。また、新入生が質問できるページも併設し、各団体の活動に参加しやすくなるように工夫した。

3. 生徒総会の開催

最初は全校生徒の一斉登校による生徒総会を想定していたが、7 月上旬に夏休み前までの分散登校が確定したため、急遽、7 月 25 日（土）に Zoom による生徒総会の開催に切り替えた。開会期日決定から期日まで 2 週間という短い時間しかなく、かつてない形式での開会であったため、生徒も開催方法の検討にかなりの時間を要したとのことである。



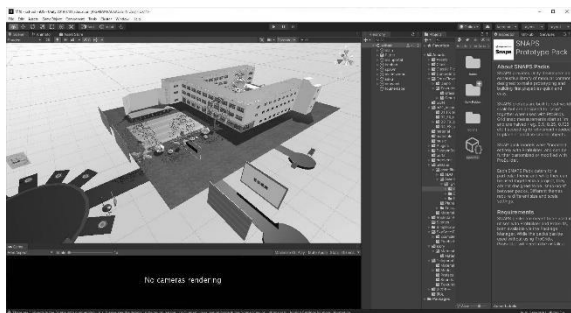
もちろん生徒総会までに、各 HR の時間を使っての Zoom による委員決め、Google フォームを利用した生徒会執行部選挙、中央委員会での通常予算案の可決など、オンラインを活用しながら生徒会の活動を進めていった。Zoom による開催を決断したのも「全校生徒が参加する生徒会」にこだわり、生徒からの質問をリアルタイムで受け付けるためである。生徒会長も「今般の生徒総会は異例な形式となりましたが、その中で今までの形式から様々なものの取捨選択を迫られたからこそ、桐陰生徒会はどうあるべきか、また本校の「自由」とは何か、考える契機となったと思います。」とコメントしている。

オンライン文化祭「桐陰祭 Online」

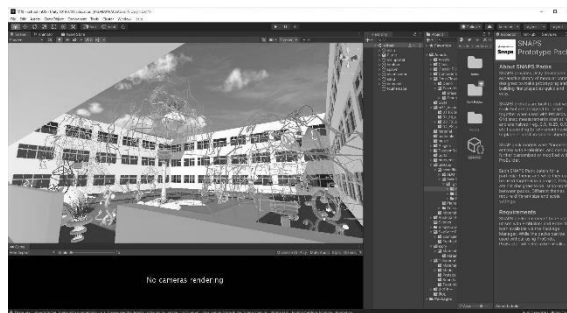
■開催までの流れ

月日	できごと
4/6	実行委員会（生徒側組織）委員長、副委員長と指導委員会（教員側組織）の委員長にて、例年通りの開催が難しいことを確認
4/16	局長会合(実行委員会幹部組織)にて文化祭のオンライン化が検討される。
4/27	教員会議にて、桐陰祭は中止とはしないことを決定
5/2	バーチャル SNS サービスを提供する cluster 社とミーティング cluster がプラットフォームの有力な候補の一つとして浮上
5/5	局長会合にて、桐陰祭をオンラインにて開催することを決定
5/18	実行委員会組織を再編 仮想空間作成等のために協力委員を募る。
5/20	桐陰祭プロモーションビデオ第一弾公開
6/10	野城研究室（東京大学生産技術研究所）とのミーティング 野城智也先生（本校卒業生、元東京大学副学長）や研究室の院生より、 仮想空間作成のためのアドバイスをいただく。
6/13	全国高校 ONLINE 文化祭会議 本校の文化祭オンライン化の取り組みを紹介 全国の高校の文化祭実行委員長が参加。全国に広まる契機となる。
6/15	オンライン文化祭の実施要項完成（資料 1 参照）
6/25	実行委員長と、中央大学、千葉大学医学部の学園祭委員長が懇談 大学のオンライン学園祭開催に向けてアドバイスをする。
7/12	校内向けイベントの開催
7/17	桐陰祭プロモーションビデオ第二弾公開
8/11	著作権ガイドライン完成（資料 2 参照）
8/24～	桐陰祭準備のための「朝活動」スタート
9/7～12	桐陰祭 Week（例年の桐陰祭実施時期を、準備のための強化週間とした）
9/8～	肖像権の取り扱いに関する確認（資料 3 参照）
9/13	対外向けイベント開催 軽音団体録音録画会
9/14	参加団体のプロモーションビデオを公開
9/16	一部コンテンツの公開を開始
10/11	スポーツ大会との合同開会式 開会式リハーサル 桐陰祭プロモーションビデオ第三弾公開
10/17, 18	桐陰祭 Online ライブイベント開催 中夜祭(10/17) 閉会式(10/18)
10/31	コンテンツ公開終了

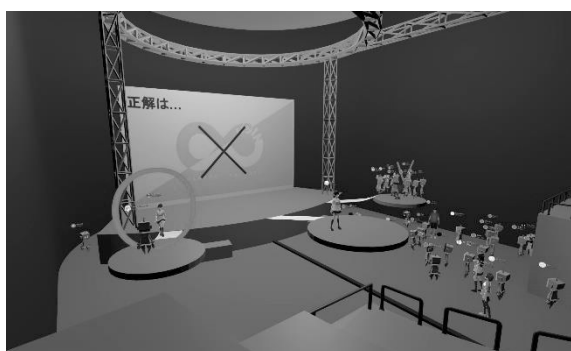
■ 準備・事前イベント・当日の様子



ゲームエンジン Unity にて校舎を作成



校舎と中庭を装飾(実際の中庭よりも…)



校内向けプレイベント(7/12):○×クイズ



校内向けプレイベント：学校寮を再現



対外向けプレイベント(9/13)



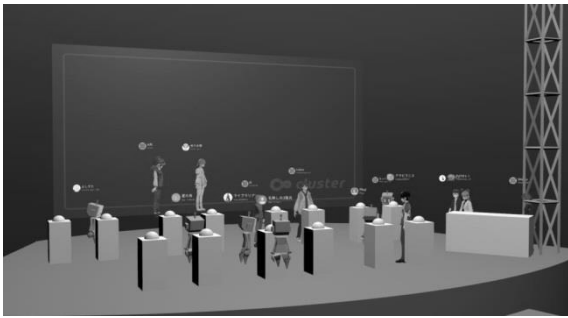
対外向けプレイベント運営中



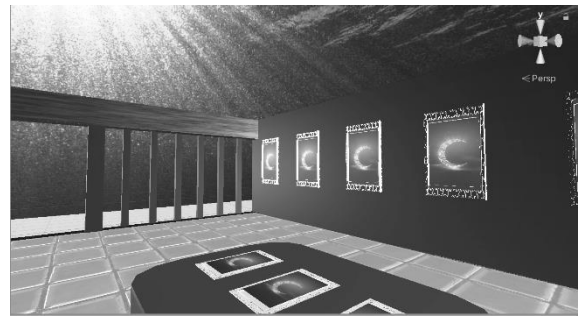
一般参加の Zoom によるクイズ大会



生徒の写真を集めたモザイクアート



クイズ研究部招待試合 7校が参加



博物館ワールドでは各種展示が公開



イベント「Tシャツグランプリ」



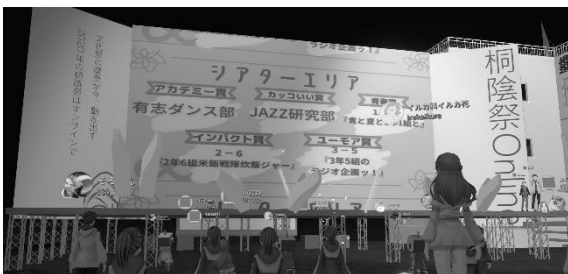
イベント運営中 YouTubeLiveで発信



シアターワールドにてクラス演劇の公演



軽音ワールドにてバンドの公演



閉会式で各種グランプリの発表



毎年恒例の花火も今年はオンラインで

第 64 回桐陰祭実施要項

1. 名称

今年度の桐陰祭の名称は「桐陰祭 Online」とする。今年度の桐陰祭はこれまでと全く違った形態になるため、例年の名称を今年度だけ改める。

2. 開催日程 2020 年 10 月 18 日（日）

3. 全体目標 「生徒一人一人が主体的に行動し、人を巻き込んでいくイベントを創る」

4. 具体目標

①生徒全員の参加

②来場者数の増加

公式桐陰祭ページへのアクセス数、cluster ワールドへの来場人数を基準とする。

③新たな文化祭のテンプレートとして確立する

今までにない文化祭の形として、内容を充実・かつ奇抜なものにする。そして開催形態を他校に引き継げるようにする。

④バリアフリーな文化祭

障害のある人、言語が違う人にも楽しんでもらえる文化祭づくりを行う。

5. テーマ 「文化祭革命」

このオンライン文化祭プロジェクトは、高校生が諦めずに自分達に出来ることを探し、何としてでも文化祭を開催しようという“戦い”である。また、オンライン開催という新たな文化祭の形を創っていききたいとも考えている。これらの思いから、まさに今回の桐陰祭 Online には「革命」という言葉が相応しいと考えこのテーマに決めた。スローガンのような位置付けでこの言葉を使っていく。

6. 当日の開催形態

今年度の桐陰祭 Online は、オンラインでの発表を軸にして行う。もし社会的にコロナウイルスの感染状況が改善された場合に備え、一部生徒内のオフラインでの活動を付け加えることを検討している。具体的なプランが作成出来次第、指導委員会を通して教員へ提出する。

7. オンラインでの開催形態

- ・ cluster を利用した仮想現実空間
- ・ Zoom などを利用した相互的なコミュニケーションの場
- ・ YouTube や Web ページなどを利用した生徒作品をアーカイブで公開する場

これら三つで構成される。（詳細は別紙に記載）

桐陰祭における著作権ガイドライン

2020年8月4日
桐陰祭 Online 実行委員会

総論

このガイドラインはあくまで「他人の著作物を利用するときのガイドライン」であり、自分たちが創作したものにはこのような制限はありません。桐陰祭においては、ぜひそのようなオリジナリティあふれる作品をたくさん作り上げていきましょう。しかしながら、他の人の著作物を利用する際にはこのガイドラインに書かれている内容に留意して、利用してください。

一般的に文化祭は学校の授業の一環であり、オフラインの文化祭での上演・演奏については、著作権法上の「例外」にあたる「非営利・無料・無報酬の上演・演奏」であり問題とならない場合がほとんどで、問題があるものについても公開範囲と公開期間がかなり限定されていたため大きなトラブルにはなっていませんでした。しかし、それを YouTube や Cluster にアップするとなると、話は変わってきます。規則にのっとった公開をしていきましょう。

そこで、自分の団体の出し物が下記にあげられたルールに抵触していないか、しっかりと確認してください。必要な場合は、著作権者に許可を取ってください(顧問を通じて確認してください)また、桐陰祭で営利目的の活動はできません。営利目的と勘違いされるようなコンテンツ(例 著しくある会社のある商品を推す)にならないよう気をつけてください。

<参考>音楽の場合、以下のように規定されています。したがって、他の著作物の場合も同様だと考えられます(JASRAC:日本音楽著作権協会 HPより)

著作権の制限①：営利を目的としない上演等（著作権法 38 条）

高校の文化祭で生徒が開催するコンサートのように、次の3つの要件を“すべて満たす”場合、著作権者の許諾を得なくても上演・演奏・上映することができます。

- ① 営利を目的としないこと
- ② 聴衆又は観衆から料金を受けないこと
- ③ 実演家に報酬が支払われないこと

なお、この規定は、上演・演奏・上映する場合を対象としています。録音・録画やインターネット配信するときには適用されません。

クラス団体における著作権

ここでは、各クラス団体のうち、特に著作権にかかわりそうな団体を取り上げて、記載しています。ここにはないクラスの人たちは、特別配慮すべきことはありませんが、ほかの項目も含めてすべて目を通し、留意してください。(中略)

音楽の利用(YouTube、cluster)

軽音団体の演奏、クラス等その他団体の動画内でBGMなどで音楽を使用する際に留意してください

◎音楽著作権の基本的な考え方

著作権：その楽曲の歌詞、メロディーに対する権利です。

著作隣接権：楽曲をCDなどにレコーディングした人が持つ権利です。CDをインターネット上で利用する権利もレコーディングした人が所持しています。

音楽の利用をする際は、以下の3通りから当てはまる項目を選び、YouTube、clusterのうち、利用する媒体について確認してください。

- ①現在ある楽曲を自分たちで演奏する→「演奏する際は」へ
- ②現在ある楽曲を演奏せず、CDやダウンロード音源を利用する
(例:音楽をかけてダンスをする、BGMとして利用する)→「音源を利用する際は」へ
- ③著作権フリーの音楽を利用する→「著作権フリーの音楽を利用する際は」へ

演奏する際は

現在ある楽曲を演奏し、インターネットで配信することは著作権を侵害することになり、著作者の許可(と利用料金)が必要です。しかし、著作者によってはこれらを許可している場合があります、JASRACやNextoneといった管理団体によって管理されています。そして、YouTubeとcluster社はそれらの団体と包括契約を交わしており、お金を利用者個々ではなく会社が払うことで利用者個々が申請や、支払いをしなくても利用が可能になっています。

<利用手順>

- ・共通

JASRAC または Nextone の検索ページにおいて、”配信”の欄が○またはブルーになっていることを確認してください。また、作品コードも控えてください

JASRAC 検索ページ→<http://www2.jasrac.or.jp/eJwid/>

Nextone 検索ページ→<https://search.nex-tone.co.jp/terms>

例:JASRACでの検索画面

- ・YouTube

→そのまま演奏した動画をアップロードできます

- ・cluster

→JASRAC/NexTone の管理楽曲の利用時には必ず登録が必要になる。以下のような例として使う場合は必ず必要

- ・アカペラ、または伴奏とともに歌う
- ・事前に制作・録音した音源を流す
- ・楽曲を演奏する

使用楽曲の登録方法の方法についてはクラスター内のページを参照

JASRACNextTone 非登録曲は登録が不必要。ただしそれら全てが不必要とは限らないので注意が必要。

例) 自身で作曲した作品、制作者側の許可が得られている作品、パブリックドメイン(著作物や発明などの知的創作物について、知的財産権が発生していない状態または消滅した状態)の作品などは不必要

音源を利用する際は

音源を利用するとは、CD やダウンロード音源を BGM として動画内で流したり、音源をかけて活動したりした動画をアップロードすることです。

- YouTube、cluster 共通

著作権の問題に対しては、「演奏する際には」と同じ手順を踏むことで解決できますが、著作隣接権に対する許可をもらう必要があります。これらはレコード会社が保持していることが多いので、各社の HP から申請することができます。

しかし、使用条件においては¥50000～や YouTube での使用不可など、使用条件は厳しいです。(各社多少の差異はあります)

よって、CD やダウンロード音源を利用することは基本的にはできません。

どうしても使用したい場合は利用条件等をレコード会社に確認したうえで、実行委員会までご相談ください。

著作権フリーの音楽を使用する際は

主に BGM 用に、著作権フリーの音楽を使用する際は以下を確認してください

- YouTube

YouTube では無料かつ、フリーで使える YouTube オーディオライブラリーというものが用意されています(主に BGM 用です)。それらは自由に動画内で使用できます。

※これらの楽曲は YouTube 以外での使用が認められているかわからないので、YouTube 外(cluster など)での使用は、控えてください。

- その他サービスを利用する

各サービスの利用規約を確認の上、使用してください。

例えば以下のようなサービスがあります。

<https://evokemusic.ai/ja/>

演劇等台本における著作権

• 演劇の台本においても、著作権 38 条が適用される。原則は、営利目的でなく、報酬など発生しなければ許可は不要。

• 小説や戯曲のような著作物は、下記のサイトから著作権利用の申請が必要な場合があります (<http://www.writersguild.or.jp/rights-use/index.html>)。使用するものが本当に使っていいものか出版社のサイトを見るなどして精査する必要がある。

http://koenkyo.org/?page_id=6340

上の URL は全国高等学校演劇協議会の著作権ガイドライン。参考までに。

一般的には…

- DVD にして配布するなどは違反にあたる。

- 基本、台本の改変は不可。

• 著作物を脚色翻案したものをインターネット上にアップロードすることは違反である。オンライン文化祭での活動、すなわち cluster で上演したり YouTube にアップしたりすることがどちらにあたるかはやはり個別の確認が必要。

• 演劇の台本が掲載されるサイト(はりことらの穴など)においては、独自のルールがあることがあるので、それに従う。必ずガイドラインがあるので読む。

結論ですが、音楽や演劇台本を使用する際は、著作権と著作隣接権をきちんと考慮しなければなりません。上のガイドラインは一般論を示したもののなので、各レコード会社や出版社に電話して確認するのが最も確実です。顧問を通して行ってください。

■資料3 肖像権について

保護者各位

2020年9月8日

筑波大学附属高等学校
学校長 藤生 英行

オンライン文化祭における肖像権の取り扱いについて（お伺い）

日頃より本校の教育活動にご支援ご協力を賜り、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため10月18日(日)に延期とし、オンラインでの開催とした桐陰祭(文化祭)ですが、実行委員会の生徒を中心に熱意と技術を集結して、着々と準備が進んでおります。

桐陰祭当日およびその前後において、インターネット上の仮想空間等にて、生徒の皆さんの活動や作品を公開することを計画しています。個人の氏名が特定されることのないように配慮しながら、本校の教育活動を広く伝えていきたいと考えております。

本校の広報媒体における肖像権の取り扱いについては、入学時に意向を伺っておりますが、行事の性質を鑑みて、あらためてお伺いすることといたしました。別紙「オンライン文化祭における肖像権の取り扱いに関する同意書」に、同意・不同意のいずれかをご記入の上、ご提出くださいますようお願い申し上げます。

※ 今回の桐陰祭では、生徒の画像、動画等が、下記媒体にて使用される可能性があります。

- 桐陰祭ホームページ
- インターネット上の仮想空間
- 桐陰祭公式SNS (Twitter、Instagram、Facebook)
- 各種メディア (テレビ、新聞等)

※ 桐陰祭ホームページ、インターネット上の仮想空間に各種コンテンツが掲載される期間は、2020年9月下旬から10月末日までとします。

※ 開会式、閉会式については、スポーツ大会と合同で行うため、スポーツ大会の画像、動画も一部使用される予定です。

※ 不同意の場合は、画像、動画等を掲載しないようにいたします。

※ 個人の氏名が使用される場合には、別途許諾をとることとします。

筑波大学附属高等学校長 殿

オンライン文化祭における肖像権の取り扱いに関する同意書

オンラインでの開催となる第64回桐陰祭について、画像、動画等が、桐陰祭ホームページ・インターネット上の仮想空間・桐陰祭公式SNS・各種メディア等の媒体で使用される可能性があることについて、

同意します

同意しません

※ 上記「同意します」「同意しません」のいずれか一方を○で囲み、他方を＝で削除してください。

日 付	2020 年 月 日
年・組・出席番号	年 組 番
生徒氏名	
参加団体名 ※ 参加するすべての団体名を記入してください。	
保護者氏名・印	印

■視聴・参加の状況

【YouTube・公開】 総計 67904 回

プロモーションビデオ第 1 弾	13435 回
プロモーションビデオ第 2 弾	5571 回
プロモーションビデオ第 3 弾	4659 回
クイズ研究会招待試合	3188 回
プレイベント生配信	1615 回
メインワールドにいったみた！	1587 回
1 年 1 組「青と夏と 1 年 1 組と」PV	1556 回
3 年 6 組「It's Your Choice」PV	1488 回
桐陰祭ストーリーを巡る	1432 回
部活動企画 剣道部	1417 回

【YouTube・限定公開】

開会式	550 回
中夜祭	592 回
閉会式	1130 回

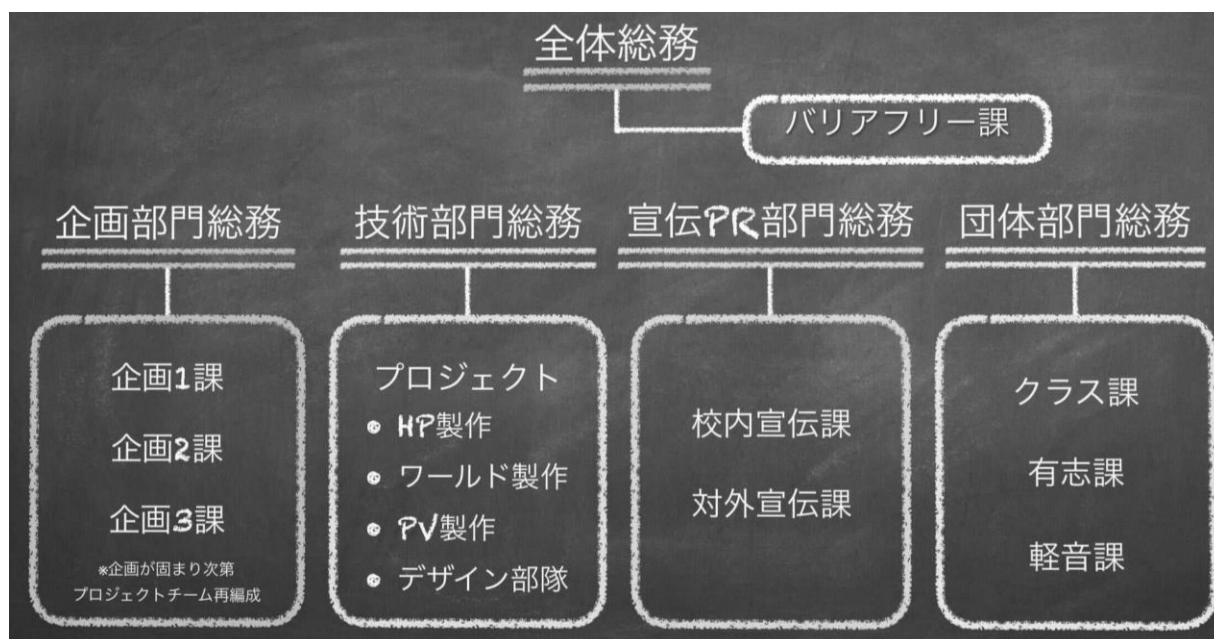
【Cluster・公開】 延べ参加者数 11194 人

メインワールド	6509 人
ライブハウスエリア	2129 人
シアターエリア	777 人
招待試合	378 人

【Cluster・限定公開】

開会式	593 人
中夜祭	270 人
閉会式	538 人

■桐陰祭 Online 実行委員会組織図〉



プロジェクトチーム活動総括

—PT の活動と学校組織が抱える課題—

1. はじめに

休校期間中の生徒の学習保障について、本校ではプロジェクトチーム（以下 PT）が立ち上げられ、その対応に当たった。その活動内容は多岐に渡ったが、ここでは、PT という組織のあり方について、なぜ PT が必要であったのか、その功罪について、記しておきたい。

2. 既存の校務分掌と PT という新たな組織

休校期間中のオンライン授業の実践について、メディアでも様々な学校の様子が紹介されていたが、本校と同様に PT という新たな組織が立ちあげられていた事例が多い。授業に関することであれば教務部、あるいは多岐に渡る横断的な内容であるならば、各分掌の長が集まる主任会や部長会など、既存の分掌を枠とした対応はなぜ難しかったのであろうか。私が考える理由は二つあって、一つ目は、オンラインに関する技術が一部の教員が有する特殊なものであったこと、二つ目は、既存の分掌はルーティンを継承することを主眼とした組織であり、新しい取組みを始めていくには不向きであったことである。オンラインの技術については世代間格差もあり、少なからず年功序列が反映された従来の分掌組織では、迅速な対応が取りにくい。他校では、民間経験のある教員が PT の中心となった事例もあったようである。一方で、分掌におけるルーティンの継承も必要なことである。教員の仕事の領分において授業運営とクラス運営が主であるならば、学校運営の一部を担う分掌の業務はそれほど優先度は高くなく、効率の良い業務継承のためのルーティン化は必要なことであらう。

3. PT の活動を通して実感された学校組織の課題

このように、ルーティンでは対応できない非常時においては、PT という柔軟な活動は効果的である。本校の取組みとしては、管理職の判断を含め、職場の環境が、こうした有志による活動を受容できる状況であったことは非常に重要であったように思う。一方で、新たなチームである PT は、既存の教員集団における位置づけが脆弱になりやすく、PT に参加する教員とそうでない教員との間の温度差も生まれやすい。その位置づけ（ルーティンとの分担など）について全教員で明確に議論するとともに、PT の側に全体を巻き込むような活動の工夫が求められるところである。

こうした事態は今回に限ったことでなく、学校組織における恒常的な課題であらう。分掌のあり方もそうであるが、生徒の安心・安全を第一に考える必要のある学校組織は、ある面では保守的にならざるを得ない。また、私企業と比べて、事務処理上のミスについて、世間の厳しい目が向けられやすい教育界の現状において、着実な業務遂行も必要とされる。今回の実践が、今後の非常時における対応や、全く新しいことに対する取組みが求められた際に、有効に活用される経験値となることを願いたい。